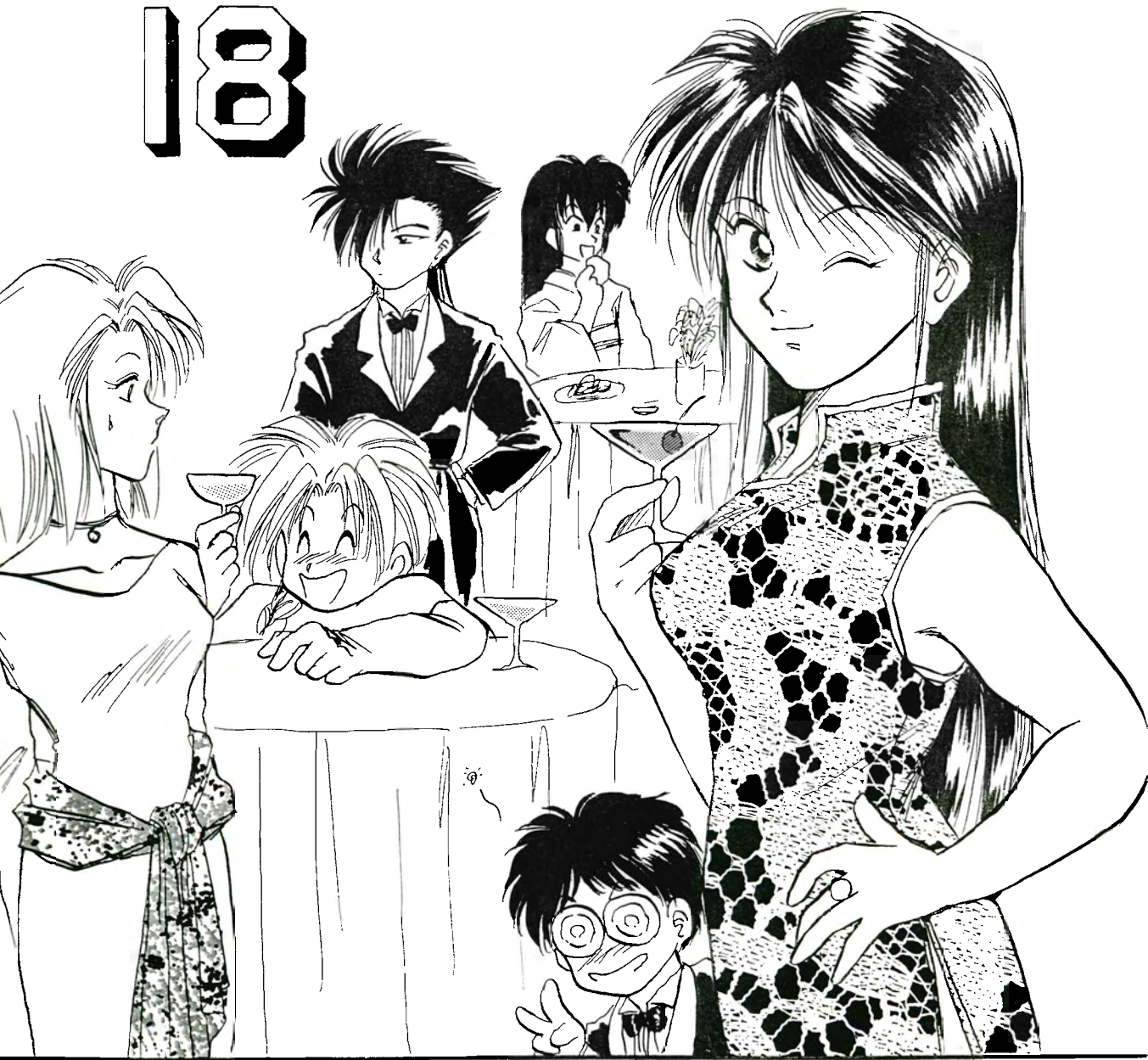


BLOWERS

18



乗船口

| | | |
|----|---------------------|-------------------------|
| 3 | FOX AWAY | 文・正宗征士 絵・井村和正 |
| 9 | 行け行け外回り！ 《堺／京都篇》 | 文・本居小次郎 |
| 13 | 真鶴学園風雲録 | 文・岬当麻 絵・セージ |
| 30 | 《三等雑居室》 | |
| 37 | 夏コミレポート | 本居の先輩 |
| 41 | PEACE PRESSER MAYA | 文・本居小次郎 絵・牛 本居の先輩 |

今月の告知

- ※「FOX AWAY」「真鶴学園風雲録」両PBMのシートは10月16日必着。
- ※「FOX AWAY」には、別売りのルールブック（300円）が必要です。
- ※「真鶴学園風雲録」には、別売りのルールブック（100円）が必要です。バージョンアップは無料です。
- ※「LOOK OUT」は筆者多忙のため、休載しました。

18号の料金表

- ①代価は300円です。（無記名の定額小為替を使用・消印に注意）
郵便切手で代用する場合は62円切手5枚です。
- ②郵便代は250円です。
- ③高校生以下の方には、学割制度があります。年度始めに学生証その他身分証明のコピーを送れば、その年度は定価の50円引き。顔写真など不要な部分は塗りつぶしても可。この割引を使う場合は、郵便切手での代用は不可。
- ④団体割引もあります。これは本の発送先を、4冊単位でまとめて構わないということだけ。ただしそれで一人分の郵便代が減るので、多ければ多いほど「少し得」になる。この割引を使う場合は、郵便代計算の都合があるので、事前にこちらに相談して下さい。
- ※なお、コスト低減のために丁度しか刷らないので、PBMに参加しない人も、なるべく「原稿締切日」までに連絡のこと。代金は多少遅れてもいいので、とにかく要る冊数だけは教えて下さい。

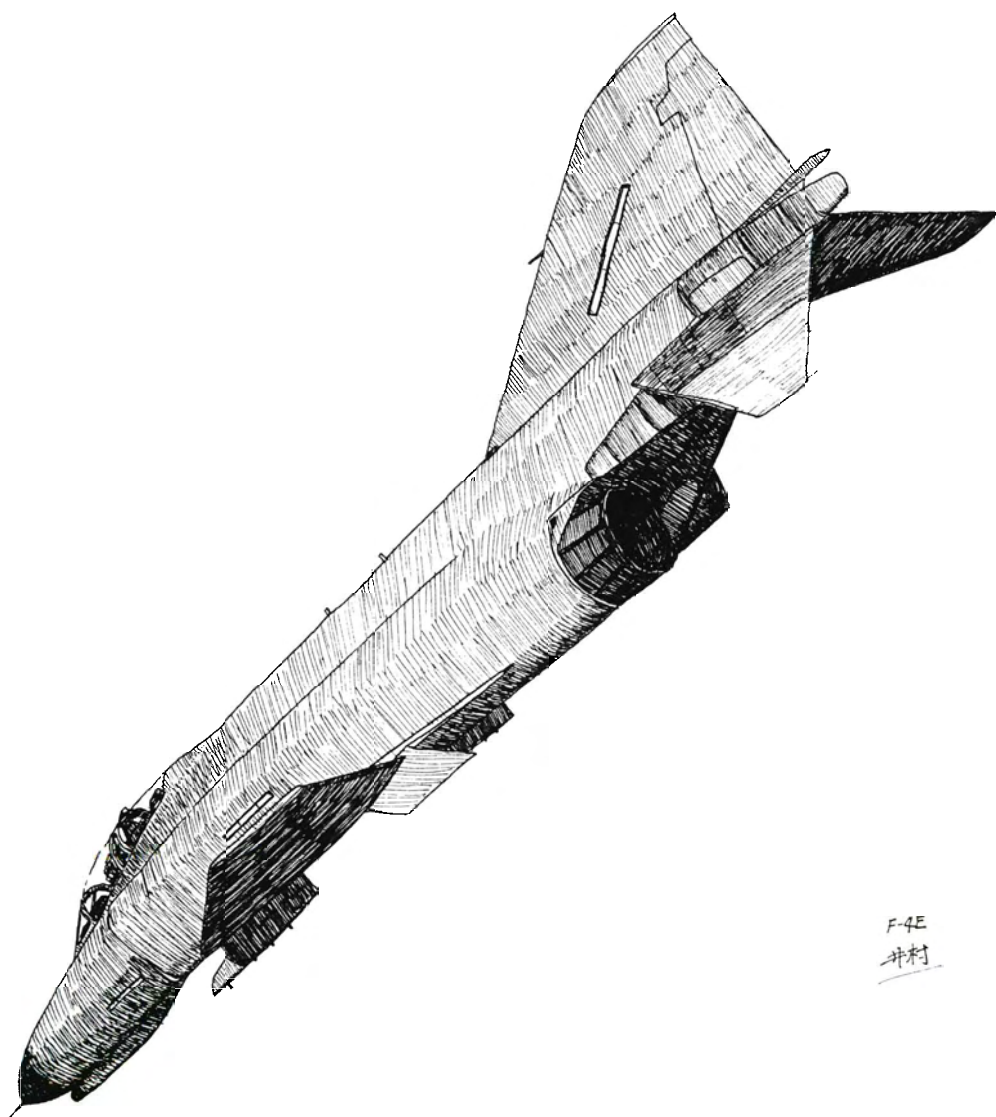
はみ出し告知

- ・真鶴の改訂版ルールについて。「運」と「異性への関心」は存続しています。「運」は0～9、「関心」は-5～+5で毎回設定して下さい。
- ・ファンロードのシュミ特形式で、「真鶴アンチヨコ」（仮称）を計画中です。「これが分からん」という単語・項目や、自分の好きなキャライラなど、何でも受け付けます。とりあえず受け付けは今年一杯。どんどん送って下さい。

天の声 | 徐々に40Pの大台を突破。ちょっと泣きが入ってる。
スタッフがもっと多けりゃあ、なあ……

FOX AWAY

第一回結果発表



F-4E
井村

イザベリア海軍航空隊

☆戦果報告

アレックス大佐：野戦基地については予定していた分に加えて新たに発見された別の1ヶ所をも潰すことに成功した。しかしながら敵の警戒も厳重であり、配備されていたと思われる対空火器の量は野戦基地のレベルをはるかに凌駕している。今回の戦闘損害はほとんどが対空火器によるものである。ソ連製SA-2対空ミサイルが大部分と思われるが、一部フランス製クロータル対空ミサイルが混じっている可能性がある。また、これはおそらく傭兵部隊のものだろうが、我軍と同じ仕様のF-11Jを敵も使っていることが判明した。格闘戦の際には誤認に充分注意せよ。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

| プレイヤー | Sqn. | 乗機 | CS | キャラクター名 | SD | BS | SP | OP | 階級 | 状態 | 機体 | | |
|-------|------|-----|---------------|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 篠原崇 | 70 | F11 | シューティング・スター | アリア=イアハート | 2 | 0 | 3 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 中破 | | |
| | 70 | F11 | “白き閃光” | スクリー=ローエンガッ | 0 | 0 | 1 | 1 | 准尉 | 生還 | 無傷 | | |
| | 70 | F11 | スカーフェイス | ヴァイ=ロー | | | | | 中尉 | 戦死 | | | |
| | 70 | F11 | ハロウィン | マイケル=キスク | 0 | 0 | 1 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 中破 | | |
| | 70 | F11 | ファントム | キュオ | | | | | 中尉 | 戦死 | | | |
| | 70 | F11 | ブラックハウリク | ガウ=バン | | | | | 中尉 | 戦死 | | | |
| | 72 | BPh | きゅべれい♡ | エルピー・プル | 2 | 2 | 7 | 2 | 少佐 | 生還 | 少破 | | |
| | | | | アルコ・クラッハ | | | | | 6 | 少佐 | 軽傷 | | |
| | 72 | BPh | シャドウ=スキル | トロン・ミラン | 0 | 2 | 5 | 0 | 6 | 大尉 | 軽傷 | 少破 | |
| | | | エレ=ラグ | | | | | 5 | 1 | 准尉 | | | |
| | 72 | F4E | Blue Comets | エル=ブライス | 1 | 0 | 15 | 2 | 3 | 0 | 上佐 | 生還 | 無傷 |
| | | | | フォウリー=ブラスマタイザー | | | | | 2 | 1 | 准尉 | | |
| | 72 | A7B | Saint Emerald | レジナ=ブライス | 0 | 3 | 7 | 7 | 2 | 0 | 少佐 | 生還 | 少破 |
| 遠藤誠 | 70 | F11 | ブラックローズ | アレックス=ノース | | | | | | | 中尉 | 戦死 | |
| | 70 | F11 | レッド・アロー | 日影 修 | 1 | 0 | 2 | 1 | 准尉 | 生還 | 無傷 | | |
| | 72 | 100 | ファイブ=バード | 草壁 健一郎 | 0 | 4 | 9 | 1 | 准尉 | 生還 | 中破 | | |
| | 72 | 100 | ブラックレイン | リチャード=チャップマン | 0 | 3 | 7 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 大破 | | |
| | 99 | A4F | リユンクス | カール=グリスン | 0 | 3 | 5 | 2 | 3 | 大尉 | 軽傷 | 少破 | |
| | 99 | Kfr | メリーセブンIV | ジョン=シェンカー | 0 | 4 | 7 | 9 | 1 | 2 | 少佐 | 軽傷 | 撃墜 |
| | 99 | A7B | ブルーグラス | ボールドウィン | 0 | 2 | 7 | 5 | 1 | 0 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| 菅原忠幸 | 71 | F11 | イカロス | ソリス=パソロミュー | | | | | | | 中尉 | 戦死 | |
| | 71 | F11 | ビッグ=トルネード | ジャック=ファラント | 1 | 0 | 2 | 1 | 准尉 | 生還 | 少破 | | |
| | 71 | BPh | 虎豹騎 | ロン=シャオレン | 0 | 0 | 7 | 1 | 1 | 1 | 少佐 | 生還 | 中破 |
| | | | | ツァイ=ツォイリン | | | | | 1 | 1 | 准尉 | | |
| | 71 | BPh | ぬえ | アーサー=ベリール | 0 | 0 | 4 | 6 | 7 | 大尉 | 軽傷 | 中破 | |
| | | | | セイ=シキフネ | | | | | 1 | 1 | 准尉 | 軽傷 | |
| | 72 | 100 | マッド=チェン | レオ=ブラッドレイ | 0 | 2 | 5 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 大破 | | |
| 72 | A7B | 歌舞伎 | ジュン=ミズサワ | 0 | 3 | 7 | 7 | 4 | 少佐 | 生還 | 少破 | | |

| | | | | | | | | | | |
|------|-----|-------|---------------|---|---|--------------|--------|----------------|----------------|----|
| | 7 2 | B c n | タイフーン | ギンゾウ・テル ユリス・フランデッド | 0 | 3 7 7 | 7 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | 1 0 0 | ハーン | アルタン・ハイ | 0 | 2 5 | 1 | 准尉 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | 5 3 0 | 昇竜 | リュウ・シキフネ | 2 | 2 157 | 3 3 | 上佐 | 生還 | 無傷 |
| 秋信敏男 | 7 0 | F 1 1 | — | L. W. スミス | | | | 中尉 | 戦死 | |
| | 7 0 | F 8 H | — | H. ストメル | 1 | 0 4 7 | 4 | 大尉 | 生還 | 無傷 |
| | 7 1 | F 1 1 | — | 井上 博之 | 0 | 0 1 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 中破 |
| | 7 1 | F 5 A | — | J. M. ワード | 1 | 0 4 7 | 3 | 大尉 | 軽傷 | 少破 |
| | 7 2 | 1 0 0 | — | B. G. カンプ | | | | 准尉 | 事故 | |
| | 7 2 | J g r | — | D. ゴードン | 0 | 3 5 2 | 4 | 大尉 | 生還 | 無傷 |
| | 7 2 | B P h | — | S. Venturs | 0 | 2 7 5 | 1 1 | 少佐 | 軽傷 | 少破 |
| | 9 9 | A H 1 | — | D. A. ドノバン G. ホルバツハ M. シュルツ | 0 | 5 1 1 | 1 | 准尉 少尉 | 生還 | 無傷 |
| 赤木崇敏 | 7 1 | K f r | Aria | アウグスト・シュレーゲル | 1 | 0 7 2 | 1 1 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 7 1 | K f r | Etude | レナルド・ウォルポール | 0 | 0 7 1 | 7 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 7 2 | 1 0 0 | バーベキュー | トム＝ローガン | | | | 准尉 | 事故 | |
| | 7 2 | 1 0 0 | Capriccio II | ウィリアム・ディズレイリ | 0 | 0 1 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 少破 |
| | 7 2 | 1 0 0 | Overture II | ロジャー・ブラッドリー | 0 | 0 1 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 少破 |
| | 7 2 | 1 0 0 | Serenade II | レナード・アッテンボロー | 0 | 0 1 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 中破 |
| | 7 2 | A 7 B | Fantasia | ジュリオ・グラムシ | 0 | 3 7 7 | 5 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 7 2 | A 7 B | Prelude | オットー・ブルンフェルス | 0 | 1 7 2 | 1 2 | 少佐 | 軽傷 | 少破 |
| | 7 2 | A 7 B | Solo | エルネスト・クローチェ | 0 | 2 7 5 | 5 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | B 2 6 | Ballad II | フランツ・マイヤー フェルディナンド・ウェルナー ツェーザル・クラウジウス | 0 | 0 1 | 1 | 准尉 准尉 | 軽傷 死亡 | 事故 |
| | 9 9 | B 2 6 | Recitative II | バウル・ヘルツホルム ニコル・デュロン セザール・フィゾー | 0 | 1 3 | 1 | 准尉 准尉 准尉 | 軽傷 生還 重傷 | 事故 |
| 菊川智範 | 7 0 | F 1 1 | タランチュラ | レビ・R・チェイス | 0 | 0 1 | 1 | 准尉 | 撃墜 | |
| | 7 2 | A 6 A | 赤い竜 | 司馬 炎 E. アッベ | 0 | 6 5 7 5 7 | 4 2 | 大尉 | 生還 | 無傷 |
| | 7 2 | A 7 B | 青の虎 | 司馬 光 | 0 | 2 7 5 | 4 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| 日高耕 | 7 2 | 1 0 0 | Hermes | ガオルグ・セフェリス | 0 | 0 1 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 中破 |
| | 7 2 | 1 0 0 | Marveric | ハリソン・フォーク | | | | 中尉 | 戦死 | |
| | 7 2 | B P h | Odin | ウィルヘルム・グラーナー アルフレッド・シュリーフェン | 0 | 2 5 0 | 4 | 大尉 中尉 | 生還 戦死 | 少破 |
| | 7 2 | A 6 A | Siva | マータ・デイオ | 0 | 3 5 2 | 6 | 大尉 | 生還 | 少破 |
| | 7 2 | A 7 B | Bacchas | ウォルフガング・レオンハルト | 0 | 5 8 1 | 1 4 | 少佐 | 軽傷 | 撃墜 |
| | 7 2 | A 7 B | Visunu | ガーン・デヴィ | | | | 大佐 | 戦死 | |

| | | | | | | | | | | |
|------|-----|-------|------------|---|---|---------|-----|----|----|-------|
| | 7 2 | B c n | Hephaestus | チュアン・マクガイア ニールズ・ヤーネ | 0 | 2 7 5 | 1 2 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | 1 0 0 | Apollo | サルバドル・ルリア | | | 5 | 1 | 准尉 | |
| | 9 9 | 1 0 0 | tool | ハリ・マーティンソン | | | | | 准尉 | 事故 |
| | 9 9 | B 2 6 | Garaga | ロバート・オーウェン カール・フォン・オシエツキ エドワード・オコナー | 0 | 1 0 2 1 | | 1 | 少尉 | 軽傷 少破 |
| 井村和正 | 7 0 | F 1 1 | バンパイア II | ファング | | | | | 中尉 | 戦死 |
| | 7 2 | J g r | バンパイア I | フォルスター | 0 | 4 6 0 | 1 0 | | 大尉 | 生還 少破 |
| | 9 9 | 零式戦 | ジーク | バルクマン | 0 | 6 1 3 | | 1 | 少尉 | 生還 無傷 |
| | 9 9 | A H 1 | N Z | カーズ サーチ | 0 | 3 7 | | 1 | 准尉 | 生還 無傷 |

イエール空軍義勇航空隊

☆戦果報告

ウシャコフ大佐：諸君も予想はしていたと思うが、正規軍の攻撃により我々の基地のうち二つまでが当面使用不能に陥った。しかし悲観することはない。我々の同志が巧妙な偽装の下、補修工事を着々と進行している。一ヶ月もすれば再び使用することが可能であろう。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

| プレイヤー | Sqn. | 乗機 | C S | キャラクター名 | S D | B S | S P | O P | 階級 | 状態 | 機体 |
|-------|------|---------|-----------------|--------------------------------------|-----|--------|-----|-----|----|----|----|
| 山田国見 | 9 0 | F 1 1 | Harpy | ピエール・ラクロ | 3 | 0 | 4 | 1 | 准尉 | 軽傷 | 少破 |
| | 9 0 | M 1 C | Prudence | ヴァイン・シュトライザー | 2 | 0 7 3 | | 9 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | A 5 III | Chimaera | ヨセフ・ラドウィツ | 0 | 5 1 1 | | 1 | 少尉 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | A 5 III | Mermade | ジーン・ラシーヌ | 0 | 3 7 | | 1 | 准尉 | 生還 | 少破 |
| | 9 9 | M r n | Gargoyle | ビンセント・ラカーザ | 0 | 3 7 | | 1 | 准尉 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | B t o | Sphinx | アレクサンドル・ラジニチェフ | 0 | 1 3 | | 1 | 准尉 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | B 2 6 | — | グスタフ・ラムステッド ウィリアム・リカー ロバート・リリュ | 0 | 4 9 | | 1 | 准尉 | 生還 | 中破 |
| | 9 9 | M 1 C | Caprice | ジェームズ・キングズベリ | 0 | 5 8 1 | | 7 | 少佐 | 生還 | 無傷 |
| | 9 9 | M r G | Awkwardness VII | カール・ドルス レオン・ブルームハルト | 2 | 0 10 3 | | 1 4 | 中佐 | 生還 | 少破 |
| | 9 9 | M r G | Daredevil | オマル・ハイヤム ポール・ラーバント | 2 | 0 10 3 | | 1 2 | 中佐 | 生還 | 少破 |
| | | | | | | | 3 | 1 | 准尉 | | |

教育的指導

- ・コールサインは、無線での呼び出し符号です。従って絵記号など発音できない物は今後認めません。同様の理由で数字を使用する場合は算用数字に統一します。

今月の動き

○1970年7月15日の「朝日新聞夕刊」：ベトナムに派遣されている米軍は現在ハノイへの空襲を強化しているが、サイゴンへのゲリラによる襲撃も激しさを増しており、いわゆるホーチミン・ルートへの攻撃もさほどの効果は上げていないのではないかという疑いが持たれている。このことは米軍が今まで採用してきた戦略に、重大な見落としがあったことを物語っている。

次回の作戦

《イザベリア軍》

大佐：引き続き、例の基地の周辺を爆撃する。どこか近くに、補給支援用の施設が未だ隠されているはずだ。ただし、村落だけは攻撃するな。米軍はそれをやって世論捜査に失敗している。

☆部隊編成

〈サンダカン〉

飛行第70戦隊（対空）

飛行第72戦隊（対地）

飛行第71戦隊（対空）

独立飛行第99中隊（対ゲリラ）

《イエール共産軍》

大佐：敵は未だこの基地の方の存在は探知していない模様だ。しかし、どうも先月攻撃してきたところのそばに未だ何かあると思いついておられるらしく、引き続き攻撃を続行する作戦らしい。実際には諸君も知つてのとおり、あそこはもぬけのからなのだ。諸君の任務はこの基地から離陸、低空で迂回ルートを経由して、方角的には先月の基地の方から、敵基地のそばにあるサンダカン郊外を爆撃する。市中央部は警戒が厳重なので近づくな。基本的にはテロである。郊外をちょっと揺さぶるだけでよい。それでは解散。

★部隊編成

〈野戦基地〉 90RW（対空）

99RW（対地）

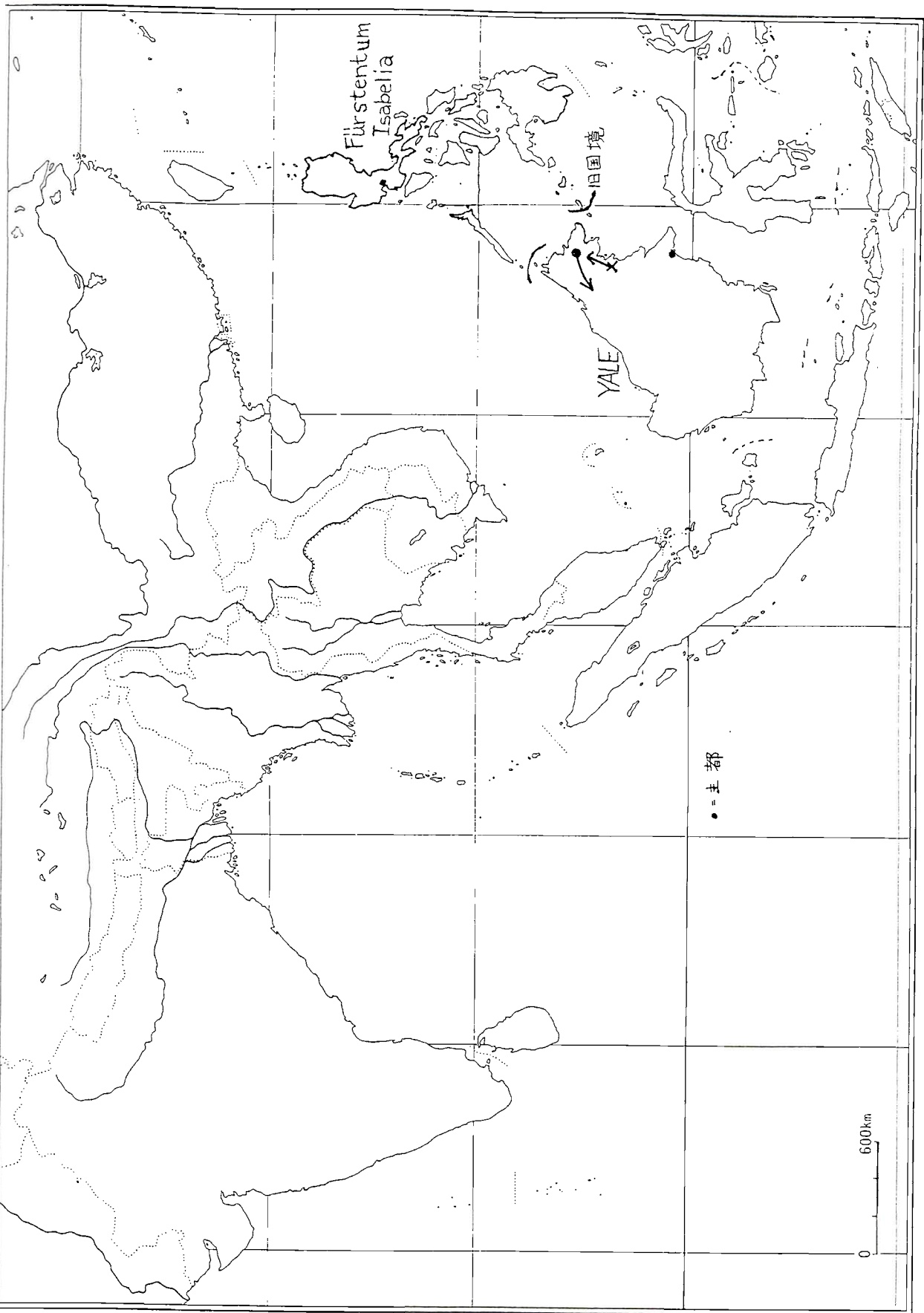
国籍制限について

従来はA-Strike時代からの名残でプレイヤーに国籍制限を設けて来ましたが、今回に至ってご覧の通り惨憺たる有様となったため、これを一切廃止します。プレイヤー一人当たり、両国に10機ずつまでエントリーさせることができます。ただし、片方に20機集中させることはできません。

編C後記（FA編）

ボートウールとYak-28は複座でした。すみません。何で前回気付かなかつたんだろう？アレクサンドル准尉のボートウールには、後席手がいたものとして扱いました。スコアはアレクサンドルと一緒にです。

しかし参ったよ。予想はしてたけど、まさかこんなに偏るとはね。東側が気の毒になってきた。やっぱり今回は西側オンリーで行った方が良かったのかなあ……。ま、近いうちベトナム派遣シナリオがあるかと思います。その時は東側圧倒的有利で空戦が進みますので、乞うご期待。



Fürstentum
Isabella

旧国境

YALE

● = 主都

0 600km

行け行け外回り！ 《堺／京都篇》

今回の堺行きは例によって「クレギオン」のプライベート・イベント参加のためである。去年まで参加していた団体が母体となって、新しい団体が生まれたため、再度堺の地を踏む機会を得たのだ。そうでなければ何で行くことがあろう？仁徳天皇陵などがあるにしても、いかんせん私は古代史にはまったく興味がない。

さて、私は前日のうちに急行銀河で横浜を発った。プライベ開始は午後1時だったが、新幹線の始発よりも早く大阪に着くこの列車を選んだのには、訳がある。それは、

- ①在来線で行く ②関ヶ原を見る ③阪堺電軌に乗る ④会場一番乗り

の3点であった。新幹線の始発では、これらをすべて満足する（当然①は除く）ことは、時間的に苦しいと予測されたのだ。別に「大垣夜行」を使っても良かったし、その方が遥かに安上がりなのだが（銀河は新幹線より高い）、何分座れないのではという危惧があった。堺で飲み会を控えている身にとって、睡眠不足よりも怖いものはない。しかもこの会では、慣習的に食べることがあまりできない。

横浜駅を2時半頃に定刻通り出発した銀河は、その後大船を通過する頃に減灯し、闇の東海道本線を疾駆した。ここで忠告しておく、この時間帯にもなると沿線もあらかた消灯しているので、海も山もまったく見えない。真鶴も通過したはずだが、やはり真っ暗で何もわからなかった。これらが見たければ新幹線を使う方が賢明だろう。そんな事情もあって、熱海に着くころにはいい加減飽きてしまい、まず一度目の仮眠に入った。ちなみに下段である。一般には上段の方が好まれる傾向があるようだが、適宜仮眠を取りつつ小まめに動き回る鉄道ファンとしては、むしろ下段の方が好ましい。少なくとも、寝台の出入りで迷惑はかけない。

次に目が覚めたのは静岡だった。ここでしばらく停車している風だったので上りホームをカーテンのすきまからのぞいていると、急行型の電車が入線してきた。ホームの案内板に目をやれば東京行きの普通とあったから、おそらく「大垣夜行」の逆バージョンだろう。思ったより空いていて、…というよりほぼガラ空きの状態だった。「大垣夜行」もそうであったならば、寝台料金で余分な出費は削れたはずなのだが、確かめる術がない以上は現状で満足する方が得というものである。

静岡を出発してもなお闇夜は変わらず、再び仮眠を取る。鉄道ファンの「神様」ともいべき存在の宮脇俊三氏もその著書の中で言っているが、「揺られながらトロトロと眠り、目が覚めると汽車が走っている。そこがなんともいえない」（鉄道旅行の楽しみ・集英社文庫）という感覚は、これなのだろうと思われた。

名古屋は時刻表の上では停車しないことになっているが、「運転停車」の可能性もあると信じて、できれば起きられれば良いと思っていた。…運良く手前で起きることができた。案の定運転停車である。「運転停車」とは、客扱いはしないが、乗務員の交代のために停車することを云う。客の乗り降りはいらないから、時刻表には載らない。これを推定し、見つけるのも、マニアの楽しみの一つ。

このあたりで空もうっすらと明けてきた。だが、先はまだ長い。

関ヶ原を見たいという願いは、車掌に助けられることになった。米原の手前で起こしてくれる様に頼んだ結果、岐阜を過ぎたあたりで起こしてくれた。起こしてくれると言っても、「おはようございます」と二度ばかりカーテン越しに小さく声を駆けてくれるだけ。車掌の立場から言えば仕事が増えるだけで、はっきり言って迷惑なので、やたらにこういう頼み事をするのは止めよう。

そこまでしてなぜ関ヶ原を見たかったかという、ここは東海道本線有数の難所だったのだ。蒸機時代には確か補助機関車をつけて走っていて、その拠点が今の米原と大垣だったはずである。いまでは電化されて機関車の性能も飛躍的に向上してはいるが、その面影は見ることができようとして期待していた訳である。が、汽車はあまりにもあっけなく、米原まで走り切ってしまった。残念。この頃には既に車窓は朝になっていた。

この後京都駅も見ておくつもりだったが、こちらは見事に寝過ごした。起きたのは高槻の手前あたりで、大阪はすぐ目前だったから、すわ一大事と慌てて支度したものである。布団類を畳み終えたのは新大阪を出るところだった。ちなみに、銀河は早朝の大阪が終着駅だから、寝台の上段を折り畳むようなことはしない。その気になれば、大阪駅まで寝ていることも可能である。

大阪駅到着は7時すぎ。いかに阪堺電軌が鈍速の路面電車だからとて、これでいきなり行ったのでは早すぎる。そこで「マニア大作戦」とあいなる訳である。何の事はない、持っているのが周遊券（京阪神ミニ）なのをいい事に、合法的に周遊区間を乗りつぶそうというだけだ。ちなみにこの京阪神ミニ周遊券というのは便利な「魔法の切符」で、ただの往復切符として使う分にも確実に数百円は安くなる。しかも、周遊券というだけあって、京阪神地区での乗り降りは何べんやってもタダ。国鉄の駅の「みどりの窓口」まで行かないと手に入らないという難点はあるが、まじめに正規料金を払うのがバカらしくなる。

最初に行ったのは草津だった。これが周遊区間の東限である。普通で行ったから、8時半ごろに到着した。時間が悪かったのかも知れないが、線路がやたらあるワリにはシケた構内だった。そろそろ腹が減ったので朝飯にするかと入った駅の食堂が、これまたシケた所で、9時になるまでモーニングセットしか出さないという。セットはコーヒーとトースト2枚だけだから、お話にならない。直ちに新快速で大阪へ帰る。このとき京都を確認しておけば良かったのだが、不覚にも往復ともにまた寝過ごすという失態を演じた。木村君、すまぬ。大阪到着は10時すぎだった。

空腹感には更に厳しさを増してきたが、大阪駅で素直に朝食というのではあまりにも芸が無さすぎる。天王寺経由で奈良に出る事にした。これなら何とか耐えられそうな気がした。とりあえずカロリーメイトを仕込む。……天王寺で一度停車したとき時計を見てみると、奈良まで行ったのでは時間的に厳しいのではないかという危惧が持ち上がる。そうなると、目的の③はもとより④までが厳しくなる恐れが出てきた。我慢できずに下車。ついでに構内で朝食を取ることにした。天王寺駅構内にファーストフードが多いのは、3年前の御坊旅行の時から確認済みである。

「空腹は最高の調味料」とは良く言ったもので、食べたチーズバーガーとアイスコーヒーが大変美味に感じられた。もしかすると本当においしかったのかも知れない。何にしても「天王寺そば」のスタンドが内装工事で休業していたのは痛かった。

阪堺電軌は、思ったよりも速かった。一つには専用軌道の方が路上走行よりも多かったこともあるだろうが、それにしても東京の世田谷線よりずっと速い。もっとも、「速い」というのは全般に言えるようで、国電も東京より速いし、車も速い。タクシーはなお速い。ややもすると置いていかれる。

さて、一度「住吉」で乗り換えたあとは、どこで降りれば良いのかわからない。風景は知っているのだが、駅名だけは知らないという大変デンジャーな冒険に挑んでいた訳である。（だから時間の余裕が必要だった）良く似た場所があったらどうしようと内心ヒヤヒヤしていたのだが、それも杞憂に終わった。「綾ノ町」でドンピシャのところに出会ったのだ。もっとも、他の人がボタンを押してなかったら、降りられなかっただろう。専用軌道から路上に出るところで、線路からの見通しは悪かったから。ここから歩きで30分というのが私の見積もりだったが、実際は20分で会場に着いた。途中とあるチェックポイントがあったのだが、（FさんちとAさんち）ここでもトラブルを起こすことなくスムーズにクリア、後は迷わず目的地に一直線。到着は11半ごろのことで、文句無しに一番乗りである。昼飯代わりに件のカロリーメイトを片付ける。旅行先では本当に重宝する「食料」だ。この後は「クレギオン#3」のプライベで、詳しく書くことは避ける。ただ、夜の宴会は「空技でこれができたら本望だなあ……」と思わせるものだったことは確かだ。

二日目、帰りは至ってシンプルだった。堺東から南海電車で新今宮、そこから環状線、東海道線を乗り次いで新大阪、それでもって「ひかり46」で横浜入り。土産品は「月刊タイガース」……いや、私はともかく妹に頼まれてたもんで。汽車の中でもほとんど寝てて、読んでない。

ただ、行きが在来線だと、新幹線というものが異様に速い代物だということが嫌と言うほど体感できます。名古屋出て加速し始めるころには（後は新横浜までノンストップ）怖くなってしかたなかったもんなあ。

さて、京都梅小路篇。こっちの方は散々でした。「現実的な範囲で可能な限り新幹線代をケチる」という目的のもと、東海道線の始発で静岡まで出るという予定でしたが、前の日が例の「台風13号」。これがシャレにならなかった。台風情報の見すぎで夜が遅くなって、この「始発」を寝過ごした。仕方がないので第2案として用意してあった急行「東海1号」で（例の京阪神ミニだと急行の自由席は全部タダ）行くことにしたのだが、台風の影響で運休。ダイヤが乱れまくってて、実際は始発でもムリだったかも知れない。

「テロかよ！」と思いつつ、追加料金を支払って新横浜から京都まで新幹線で直行。これがまた自由席なもんだから、2時間半の間ずっと立ちんぼうだったわけです。普段通学で1時間ばかり立ってる事はあるにせよ、2時間半はダメじゃないですよ。後で京都でバス乗った時、椅子でマジに寝そうになったし。

来てくれたのは木村君と、今年の堺で知りあったネットゲーマー。もう一人学校のサークルの人間が帰省中で、こっちにも顔を出すはずだったのですが、遅刻で現地合流。彼は前回の厚木でも集合に間にあわなかった、「前科者」だった訳ですが……今回もやってくれました。泊めてくれたから多くは言えないけど。

梅小路はいい所でした。何となく「動物園」のイメージが無きにしもあらずとい

う感じではあったけど、あれだけの量の実物をそろえられると、圧倒されます。運転実演では汽笛を「**身体で**」聞いてきたし、100tからある蒸機の走る重低音も感じてきたし、久しぶりにいい思いをして参りました。うん。

んで、その日はその遅れてきた奴の家に泊まって、二日目は吉本新喜劇を見に行っただけでした。あそこは確かに面白い。あんまり面白すぎて、ネタを覚えて芸人の名前を忘れるという初歩的なミスをするほどでした。プログラムは買えなかったし……入場前に買ってたら立ち見のスペースすら取れなかっただろうし、かといって終わってから見に行ったら一部たりとも残ってなかったのです。大阪恐るべし。吉本Tシャツに吉本タオル、その他小物類がいろいろ手に入ったことは収穫でしたが……ただ、荷物が増えたのには困った。出発時の荷物がぜい肉を極端に削っていたので、土産をしまうことができなかったのです。まあ、何とか対処はしましたが。

何はともあれ、今回の2度にわたる関西行きは、ともに「成功!」と言えるに足るだけの物だったことは確かでしょう。

おまけ . . .

先日の新聞記事で、運転士の9割までが「のぞみ」に何らかの不信を抱いている旨載っていた。当然であろう。しつこいようだが、出てせいぜい260km/時を前提に造った線路で270km/時を出そうというのだから。

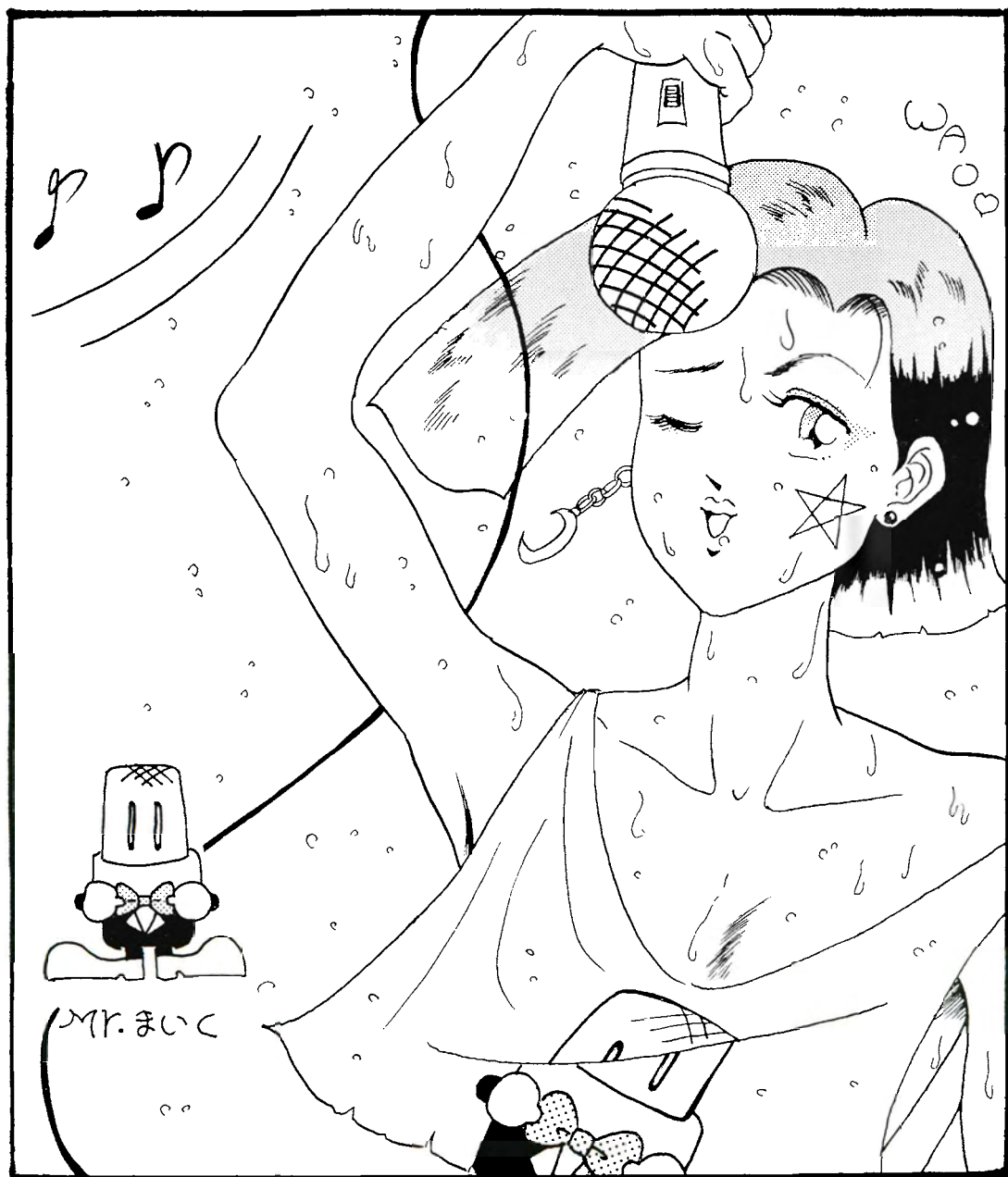
そもそも、新幹線という乗り物は、「速い列車」ではない。建設当初の目的は、「東海道本線（以降在来線）の補助」だったのだから。即ち、昭和40年代には在来線の容量がパンクするであろう事を見越して、旅客分を別線にスライドさせることを主眼に置いていたのだ。

線路容量を上げるには、2つの手段がある。一つは単純に線路を増やすこと。もう一つは列車速度を上げることである。爆発的に急増していた「太平洋ベルト地帯」の需要を解決するために、計画新線は両者を一挙に行わざるをえなかったのだ。そこで計算の結果出された数値が、「当面は210km/時」（技術の限界）であり、「最終的には250km/時」（理想的数値）だった。設計限界速度260km/時は安全の為の余分を含んだ数字にすぎない。

結局は並行して建設された高速道路網のお陰で、良くも悪くも在来線のパンクは起きなかったし、今後も起きないだろう。むしろ今、在来線は「力をもて余している」と言っても差し支えあるまい。そこでの「のぞみ」の270km/時はまさに「便所の100W」であり、目標とするところの300km/時運転に至っては何をかいわんやである。

いつの間にか新幹線は「速い列車」というイメージを持つに至っているが、そうではない。（それ自体は誤りではないが）「たくさん運べる列車」なのである。これを間違えると、墓穴を深くする。悪いのはスピード競争意識である。例えばフランスのTGVは300km/時を出すと喧伝されているが、あれは乾燥した路面で、しかも下り坂一直線の試験線を出したデータである。カーブが多くて、しかも湿っているところで、さらに山坂とトンネルの多い日本とは、土俵がまったく違う。張り合おうというのが無茶だ。その点で、「ひかり」の現行、250km/時での営業運転は充分誇つていい数字だろう。

真鶴学園風雲録



お昼の放送は如月さんがこのよーなカッコで行っているというウワサがありますが
単なるウワサです…たぶん…。

9月1日、新学期が始まった。

模倣部は新しく編成され直し、その体制下で新たな練習が始められた。菅原絵馬は初めての空母艦隊ということもあって、航空用兵について一から訓練を始めた。今までの水上艦艇だけの編成とは、戦術の概念もまったく異なる。その点では、副官の鳩山平和との議論は、方法の洗練に役立った。

一週間もみっちり練習すると、結構サマにはなるものである。自分で納得できるようになってから、かねて手配しておいた初雁つばめとの海戦に持ち込んだ。

菅原は、出港するなりE-2Cを飛ばし、遠く洋上の初雁艦隊を探し求めた。菅原が採った戦略では、いかに早く敵を見つけるかが鍵となる。探査が始まるなり初雁たちを見つけた菅原は、艦載機を一旦遠ざける一方で艦隊速力を上げて攻撃に入り、巡洋艦群を前に出して初雁艦隊に寄って行った。

初雁艦隊は、そんな事に構わないかのように、輪形陣を崩さずに進撃していた。その角度も菅原艦隊に斜めを向いている。菅原艦隊に気付いていないようだった。緊張の時間が流れる。巡洋艦のハーブーンの射程は80キロ弱、初雁隊の長門級の主砲射程は35キロ前後。鳥海級の射程は更に落ちるが、ハーブーンは初雁隊の「こんごう」も持っていた。あとはどちらが先に見つけて、先にぶっ放すかで勝負は決まる。

決まる、筈だった。

先にハーブーンを放ったのは菅原隊だった。白い煙を曳きながら、対艦ミサイルは初雁艦隊の方に進んでいく。予想外の展開は、弾着の一分前に起きた。長門級以下各艦の全砲門が火を吹き、水面に水柱を立てたのである。シー・スキミングに入っていて海面すれ

すれに飛行していたミサイルは、ことごとくこの中に突っ込んで、自爆した。これを避けえたくも僅かのミサイルは、「こんごう」級2隻の手をわずらわせるまでもなく、対空火器によって潰された。菅原隊には、何が起こったのか知る術はない。ミサイルのマーカークレーダー上からすべて消えたのを見て、「『こんごう』侮るべからず」と思うに留まり、再びSSM攻撃に入った。今度は同時に上空から艦載機を突撃させて、飽和攻撃を試みてもみた。

同じシーンが再び繰り返された。

水柱でSSMが潰される。「こんごう」によって艦載機が追い払われる。残った機体も対空砲に食われた。模擬戦だから艦載機の損害はコンピューターを介した模擬的なもので、実際に機体が失われている訳ではないが、菅原たちの脱力感は大きかった。

違う意味での脱力感は、初雁の「白幡」艦橋上の春日千明を襲っていた。「大艦巨砲」を今一つ信じ切れない彼女は、巨砲の「もう一つの使い道」を見せられて、啞然となっていたのだ。

「マニュアル通りにやってたら、ケンカにゃ勝てないよ」

初雁はニヤリとなって、周りの乗員たちに言っただけだ。

しばらくして、「白幡」が菅原の「竿灯」の左舷に並んだ。主砲と右舷副砲を全て「竿灯」に指向している。それまでには、菅原の砲戦艦はあらかじめ大口徑弾を受けていて、戦闘不能になっていた。菅原は、艦橋の外に出た。初雁もメガホンを手にして出ていた。

「参った！」手をメガホン代わりにして、菅原は怒鳴った。「また今度！」

「ずいぶん強くなったよ！」初雁が怒鳴り返す。「『こんごう』がなかったら、こっちは勝てなかった！」

「初雁」という一つの頭脳の下で反則的な強さを誇る「白幡」だった（初雁は前の金剛級からこの名前を引き継いでいた）が、初雁の副官、春日千明にとってはあまり感じのいい名前ではなかった。

「このフネの名前って、なーんか『白旗』みたいで、やだなア」

「シロハタじゃないっ！シラハタっ！」

なぜか初雁はムキになっていた。

「にしたって、どーせ白なら『白雪』みたいにきれいなとかア……」

「それじゃ駆逐艦と一緒にじゃん」

「じゃ『大和』みたいにカッコいいのとかア……」

初雁は溜息をついた。この辺は師匠の榛名の影響が強いかも知れない。

「白幡ってのは、私が出た小学校の名前なの。別に意味もなく付けた訳じゃなし、いいじゃん」

それっきりその話は、なしになってしまった。白幡小学校で初雁に何があったのか、それを知るものは本人のみである。

模型部の活動ばかりでなく、文化祭に向けた準備の方も、いよいよ佳境に入りつつあった。……とは言え、やはり模型部関係に偏りが出るのはシステム上の……もとい、真鶴ならではだろう。早坂理絵は何を思ったか、小田原まで出かけて行って、小田水の岩屋口に会おうとした。小田原水産は本当なら7月の対抗戦の時に殴り込んでいるはずだったが、梅田香奈の例の件があったせいで初めてになる。

小田原水産も二学期に入っていて、放課後になっても生徒は山といた。中学生の早坂が入っていくと、小さいだけに目立った。まして真鶴の制服である。すぐに男子生徒からナンパされか

かった。これ幸いと物理教室の場所を尋ねたまでは良かったが、向こうは全然聞いていない。

「宇垣の姐さんに言いつけるでェ！」

相手は豆鉄砲を食ったような驚き方をした。関西弁が追い討ちをかける。

「……お前、宇垣さんとこのか？」

「せや！文句あるか！」

早坂は凄んだ。中学生が凄んだところで対して怖くはないのだが、何せ宇垣である。本当は面識もロクにないのだが、「ハッター」のテクが如月の影響でじわじわと浸透しつつあった。

「ほらほら早よ物理教室連れてかんかい！」

宇垣の名前が出たとたん、早坂と不幸な小田水生を中心に半径5メートルの空白ができていた。今度はそれが、理科校舎へ移動を開始した。

物理準備室の前まで来て、彼の方は一目散に逃げてしまった。

「ちょっと惜しかったかな」

眩きながらドアノブに手をかけると、扉は勝手に開いた。中から出てきたのは真鶴の夏服の男子生徒、それも高校生だった。何かカバンを大事そうに持っているが、早坂に気がついた彼はびっくりした様子で、そそくさと立ち去った。

物理準備室は、特有の薬品臭に包まれていた。ハンダの臭いも混じっている。数々の焼け焦げや、薬品の侵食ですっかり痛んだ事務机と、めまいのするような書類の束に埋もれるようになって、骨張った体つきの老人が何かを必死に書き留めていた。

「あのう……」

早坂が声をかけると、老人は回転椅子を軋ませて振り返った。

「何だ、また真鶴の生徒か」

ということは。

「私が岩屋口だ。何か用か？」

かなり気難しそうだと直感した彼女は、すぐに自分が持ってきたプランを話しだした。

- ① P-51Hをベースに、8発のフェニックスAAMが搭載できるようにしたツインムスタングを作る。
- ② マクロスのバルキリーを飛ばす。「ガウォーク」形態への変形も考える。
- ③ B-36にファランクス、スティンガー、アムラームなどを積んで「空のイージス艦」を作る。

実はこのうち②は、一学期一杯で「素行不良」を理由に退学処分になった影山もやろうとしていたのだが、いわゆる「DMシステムの壁」にぶつかって果たせなかったのだった。ただでさえ保安関係の装置にスペースを食われているDM機は、変形することなど望むべくもないのである。これはいかな岩屋口と言えど、乗り越えることはできない。結果がどうなっていようと、彼の発明は「強くて、楽チンで、あつと驚くような物」を前提にしているのであって、そこが一つでも欠けたものを作ることは彼のモットーに反するのだった。

「自分でできるだろう。私は忙しい」

そうとだけ答えて、彼はまた「仕事」に没頭してしまった。早坂が背後からそつとのぞいてみると、それは何やら構造強度の予備計算のようだった。もう一つ転がっていた凶面は、彼女もよく見なれたワルター・ロケットのものである。察するに、どうやら何かをロケット機に改造するようだった。だが、その成果が何であるか、その時の早坂

には、予想もつかなかった。

軽音班でも、お披露目となる文化祭に向けての下準備には熱が入っていた。吹奏楽部のアシストがあるのだから、他のにわか作りの生徒バンドとは一味違うところを見せなければならない。そんな意気込みも、奥の方には感じられた。プログラムのコマ割りも、生徒の中では一番よいとされる「プラス最終演奏のすぐ前」が割り当てられた。演劇部だの、運動系クラブの実演だの、果ては文化祭の時だけ臨時に認められる生徒バンド等、各種団体の参加希望がひしめいているところで、常時公認とは言え新興のバンドがいい所を取れるというのは、幸運以外の何物でもなかった。もっとも、他が30分単位なのに1時間ものコマを3つも取ってしまう吹奏楽部／管弦楽部がもう少し控えれば、コマの奪いあいも少しは楽になるというものだろう。

東はパフォーマンスとして空手のデモを提案したが、加藤が後片付けの手間と、演奏との整合性との点で難色を示して、結局流産となった。

早坂が主催した「変な飛行機展示飛行」には、影月多紀、光次郎・エディの二人が名乗りを上げてきた。影月の顔に、早坂は見覚えがあった。小田水で出くわした、彼である。なるほど、そういう訳だったのかな、と彼女はあたりをつけた。おそらく何かの機体に岩屋口チューンを施したに違いない。

一通り趣旨と計画を話し終えた早坂は、その二人の参加を改めて確認した。ただエディはちょっと誤解していたようで、ミラージュⅢを使うと言っていたのを説得し（ミラージュは早坂の言う変な飛行機には含まれない）、

H○229に乗せる事にした。早坂本人はXB-49である。問題の影月の使用機は、ベル222（ヘリ）の高速化改造機であるというだけで、詳しいことはわからなかった。影月自身も、コンセプトを話した段階で岩屋口に「私に任せ給え」と言い切られ、それ以上の関与は許されなかったからだ。

舞台は「白幡」の艦橋に戻る。

9月も二週目に入った頃、初雁は春日を戦闘艦橋に連れて上がった。

「何か話したいことがあるんじゃないの？」彼女はいつも通りのお気楽な口調で話題を振った。「M資金の事とか」

長門級の航海艦橋は、わりと広めにできている。艦隊司令部にもなると艦そのものの乗員だけでなく、指揮関係に何人かの生徒が乗り組むようになっていた。それだけ人目がある訳で、大声で話すのははばかれる内容ではあった。実際、風紀委員の方でも春日をあまり信用していないと見えて、「通信係」の名目で「白幡」に委員をもう一人もぐり込ませていた。早い時期に春日はそれを見抜いて、初雁に報告していたのだが、彼女は別にどうもしなかった。要は自分が気をつけていればいい、そういう訳である。

その点、戦闘艦橋は狭苦しく、あまり聞き耳を立てるには向いていない場所と言えた。

「つぼめチャンはどこまで知ってる？」

「さて、どう答えたものやら」

いつもの事とは言え年齢差など眼中にない春日の口調に若干戸惑いを感じつつも、初雁は自分で振った話題をはぐらかした。

「それがあある場所も知ってるって言ったら？」

最初春日はドキンとしたが、すぐに

気がついた。

「それ、ハッターリ？」

「さあね、どうかな」

軽く鼻を鳴らし、初雁はツァイスの双眼鏡で水平線を見やった。

「野郎ども、お宝は目の前だあ！」

「ふざけてないで、ホントのところはどうなの？」

「いや、実際、ありかまでは知ってるよ。行ったこたないけど」

「どこ？」

まだ怪しいなと思いつつも、春日は少し突っ込んでみた。

「……宇垣さんに行くなって言われてるんだけどなあ……」

初雁はしばらく考え込んだ。

「それに、M資金って言っても、私たちが目にできるのは、ほんのごく一部だけだよ。それも金だとか、宝石とかじゃないらしいし……見るとシラケるから止めとけて話なんだよね。直接お金になるのは、スイス銀行の秘密口座にあるらしいけど、それは提督先輩でも手がつけられないらしいし」

春日はその勿体振った言い回しが気にかかって仕方がなくなった。

「ね、私とつぼめチャンの仲じゃん、見に行ってみようよ！」

「でも宇垣さんがなんて言うか……」

初雁はまだ泣いていた。

「だーまって行けばわかんないって！ 行こ行こ！今夜行こ！」

「……いっべん、宇垣さんに探り入れてみるから、それで大丈夫そうだったら、ね？」

別に今夜という訳ではなかったが、とりあえず春日もその線で妥協した。

9月半ばの文化祭。その一日目。

開場早々に早坂率いる全翼機の編隊が、女子部上空に飛来した。当初の予定では開会式のさなかにやるはずだったのだが、それを聞いた参加者が全員一致で反対した（罰が怖い）ため、ここまで後退した訳である。もっとも機体がそれほど大きい訳ではない（実機ならともかく）ため、観衆に与えたインパクトの点では今一つだった。「あ、何か飛んでる」という程度が関の山で、土曜日の早朝、わずかな来客のほとんどは、飛行展示があった事実すら知らなかった。

それだけでも惨めだったのに、踏んだり蹴ったりだったのは影月多紀のベル222（改）だろう。岩屋口の手を借りて「高速化改造」を施したこのヘリについて、本人以外は、早坂さえも、誰も詳しいことは知らなかった。実のところ発覚を避けるために試運転すらやらなかったのが、影月自身も詳しいことはわかっていない。

事件は編隊が校庭上空に入って加速したときに起きた。回転翼機は、固定翼機に対して、構造上どうしても速度が劣る。影付きが施したのは「その為」の改造だったのだが……

「ブースト！」

彼が装置を作動させた瞬間。

めきよ…ばき。

機体後部からロケットの炎が噴き出すや否や、胴体からローターがもげた。高G加速に耐えられるよう機体全般を強化しただけあって、もげたローターも、胴体も、それ以上の破壊は免れた。加速の勢いでかなりの距離を胴体は飛行したが、結局「ヘリの限界」を破ることはできなかったのだ。もちろん

ん展示飛行は中止である。影月自身と「企画責任者」の早坂は、その日一日だけ、寮で謹慎処分となった。

朝比奈美雪は、弓道場でこれ以上ないほど肝を冷す思いだった。そして同時に、自分の提案が軽はずみだったことを後悔していた。来客用に一番弱い弓を用意して、距離を正規の半分にした上で和弓を体験してもらおうという計画だったが……

その結果は、今、弓道部員たちの前に現実の厳しさをさらけ出していた。ほとんどの矢は見当違いの方向、それも隣の的ならまだかわいい方で、ひどいになると壁を越えて藪の中まで飛ばしてしまうのまでいた。文化祭が終わってからしばらく、特に朝比奈は、傷んでしまった矢の修繕に忙殺されることになる……

二日目、女子部高1Aの展示室は、異様な熱気に包まれていた。遮光のために暗幕で囲っていたことも一つだったが、それだけではなかった。教室一室から机を全て取り払い、教壇を舞台に見立てての簡単な劇場になっていた（客席はビニールシートである）が、その前半部分は放送委員たちによって占拠されていたのだ。全て如月によって手配された「サクラ」であった。これが「何かあるらしい」という噂を呼び、午前の部が始まる頃には生徒だけでスシ詰めになっている有様となった。

出し物は「白雪姫」だった。「主役」の春日はもちろん姫様である。劇は何の問題もなく平穩に進行し、「期待外れ」にがっかりさせられた大半の生徒は中盤の7人の小人の頃には三々五々出て行ってしまった。終盤になって如

月が姿を見せ、「いよいよか」ということで再び客は増えたが、最初ほどではなかった。

「事件」は、最後のシーンで起きた。王子様役の朝比奈美雪が、棺の中に眠る白雪姫にキスしようとした矢先。棺の中からニョッキリと白雪姫の腕が現われて、王子の頭をつかまえた。

次の瞬間、二人は猛然たるフラッシュの洪水の中に包まれた。後ろにいた観客たちは、タイミングを外して何が起こったのか判らなかつた者と、これ以上ない照明の中でしっかり網膜に焼き付けられた者と、二つに分かれた。

「直キス」だった。

勿論、台本にこんな事がある筈はない。キスシーンだって、底の深めの棺の中で顔をずらせることで「そう見える」様にするだけのはずだった。

最初凍りついていた朝比奈は、事態を理解するや否や弾かれたように春日から離れようとしたが、抑えつける春日の力の方が強かった。しっかり首をつかまえた春日が、朝比奈に引きずり起こされるような形で上体を現わす。朝比奈は恐慌状態に陥った。時間にして1、2分だったろうが（それでも充分長い）、朝比奈にしてみれば10年かそれ以上に感じられただろう。

如月自身愕然となっていた。「ヒョウタンから駒」とは正にこのことだ、と何故か冷静に察得してもいた。放送で言った時には、純粋に冗談のつもりだったのだ……！

「いいなあ……」

横にいた永野伊勢が、よだれも垂らさんばかりに見惚れているが、次の変化はすぐに来た。

「中止！中止——っ！」

そう叫びながら、腕章をつけた風紀委員たちが10人ばかり、群れをなして飛び込んできたのだ。直ちに二人は引きはがされ、職員室へ連行された。もちろん午後の部は無しである。



夜になってから、朝比奈は泣きながら春日の部屋へ抗議しに行った。

「ファースト・キスだったのに……！ どう責任とってくれんのよッ……！」

責任を取れと言われても、どうしようもない、かもしれない。

時間は戻ってその日の午後。

「軽音班」のデビュー公演があった。ぎりぎりまでパート割りでもめた彼らだったが、結局班長の伊藤早苗の決断で、すべてまとまった。バンド名も伊藤が決めた。「ACURA」（アキュラ）である。

キーボード…伊藤早苗
ボーカル／ギター…早坂良絵
ギター…東大鳳
ベース…エディ・光次郎
ドラム…榊裕

以上が、最終的な編成である。榊がボーカルをやりたいと頑張ったが、結局こうなった。

体育館で行われている出し物のうち、トリの先生バンド「C-C-G」の前の前にあたるから、言ってみれば体のいい前座である。冷房のない体育館、しかも暗幕で窓をすべて蔽っているから、熱気はただでさえ想像を絶した。

曲の方はほとんどB'zのカバーで、早坂が歌ったが、最後の「P.S. I LOVE YOU」だけは伊藤が歌った。レベルの方はにわか作りの生徒バンドと大差ないといっても差し支えないだろう。ハーフのエディに女生徒のにわかファンが生まれたのは、成果の一つだろう。

因みに、コードをおぼえきれなかった早坂の分を舞台裏で加藤が弾いていたことは、観客は知らない。

自分のアイデアで産み出されたアグレッサー隊ではあったが、どうも居辛いことだけは確かだった。隊員の構成はほとんど内進生だったことだけでも、居辛さの要因たりえた。

結局、辞める事にした。それはそれで「いい気味だ」という陰口を叩かれることになるのだが、これ以上必要とされていない（と思われる）所に居続けることはもっと辛かった。

異動先は、永野伊勢のS-2隊だった。てっきりもとのA-4隊に戻るものだと思い込んでいた彼女は、なんとなくはぐらかされたような気分になったが、「空に対する情熱」を失っていた彼女には、もうどうでもいいような気さえ起こさせた。

それは模型部での活動中ばかりでなく、寮での日常生活にも如実に現われてきていた。モロに影響を被ったのが同室の初雁である。M資金の事は坂井にはまだ秘密だったから、若干後ろめたい気持ちはあったのだが、それが坂井の湿っぽい態度で反作用を及ぼし、逆噴射を起こさせることになった。

変化は突然訪れた。宇垣を参考にわずかながら計算した事ではあったが、「**ド畜生一ツ！**」初雁は課題のレポート用紙をまき散らし、爆発した。「いつまでうじうじしてんの！ ちょっとは私の迷惑も考えてよ！」

だが、初雁の発破は、坂井にとっては更にマイナスに働いた。

「そりゃ、あなたはいいわよね」坂井は深々と溜息を付いた。「失敗も、悩みごともなくって」

この一言で、今度こそ本当に、初雁はキレた。最初が高性能爆弾なら、今度のはFAEくらいはあっただろう。

「じゃ何かい！ そうやってお上品に泣いてりゃ、いいことが有るってのかい？

ええ!?甘ったれんじゃないよ!」

計算抜きに本気で怒っていた。

「ハッキリ答えてみなよ!いつも私がヘラヘラ笑ってると思ったら大間違いだよ!でき損ないの都落ちしたハマツ子?ナメンじゃねえや、空飛ぶことしか能が無いくせに、この田舎もんっ!」

さすがに言ってからしまったと思ったが、後の祭だった。ここまで来たら行くところまで行くしかない。初雁は観念した。

「大体いつもそうやって、飛行機乗りは船乗りのことをバカにするんだ。小船で時化の中を港に戻るのがどんなに大変か知ってるの!?…知る訳やないやね、そんな時ゃクソ小利口な飛行機乗りの皆様はとっとと寮の御室室のおベッドの中に御戻りになりくさって、御本でもお読みになっておくつろぎあそばしやがってますからね。ああそうですとも、私どもは悩みを知らないがさつな船乗りでございますよ!女だてらに三角定規振り回して、戦艦ゴリゴリ乗り回して、大砲ばっかりぶっ放しておりますですよ!そりゃあスマートにミサイル飛ばしておしまい飛行機乗りの皆様とは住んでる世界が違うでございますですよ!」

マズいなー…と初雁が内心冷静になるほど、今度は坂井の感情の方がレッドゾーンに迫っていった。

「え、どうしたい。ぐうの音も出ないかい?…ほお。何だよその涙は。悔しいかよ。だったら泣けば?泣いてクニに帰りなよ。誰も止めやしないから。え?和歌山へ帰れってえのよ!」

ヤケッぱちの初雁の最後の罵声と同時に、今度は坂井が爆発した。意味不明の喚き声を上げながら、大事に本棚に飾ってあった自分の機体、F-18、Su-27、その他諸々を、手当たり

次第に初雁に、そして壁に向かって投げつけ始めた。投げつける機体がなくなると、今度は航空関係の本をめちゃくちゃに投げ始めた。

「この野郎一つ!」

いきなり腕力に訴えられたと早合点して、初雁の怒りも再びレッドゾーンへ軽々と吹き上がった。数々の凶書をかいくぐって坂井につかみかかる。

後は青春物のドラマにありがちな…殴りあい。

ただならぬ騒ぎにやじ馬が集まり始めたが(こういう時だけは妙に機敏なのが真鶴の生徒の欠点であり、また長所でもある)、大概はあまりの凄まじさに尻込みせざるを得なかった。

すこし遅れて宿直の先生が飛び込んできたが、こちらは手慣れたもので、すぐに二人を取り押さえると宿直室へと連れていった。だが、別に何を叱られるでもなく、気分が落ち着いたのを見届けると、放免された。この種の暴発は、ホームシックにかかった生徒がごくたまにはあるが起こすものだ。だが、それ以降二人は、まったく口もきかなくなってしまった。初雁は消灯ぎりぎりまで加越京子の部屋の方に入りびたるようになったから、更にその傾向は助長された。



9月も末になってから、井村真知子は早坂理絵に腕試しを持ちかけた。「しんや」の方はほとんど副官の有明みどりに任せっきりになっている。

井村はF-22、早坂はF-16のCCV仕様機を用意した。仲良く並んで離陸した二人は、予め打ち合わせた通りに距離を取った。もとより井村は格闘戦をやるつもりはなかった。燃料と時間が無駄だと考えたのである。従って、レーダーの能力とエンジンパワーを最大限活かした一撃離脱戦法を取ることになる。これに対して早坂は、いつも通り遊ぶつもりだったから、格闘戦に持ち込む構えでいた。井村の方も遊びのつもりだろうと考えていたから、いきおい水平面、それも前方の見張りに注意が偏ってしまった。ほぼ理想的な奇襲パターンになった。

後ろ上方からエンジン全開で突っ込まれた早坂はすぐに事態を把握したが、焦りよりも後悔の方が先に立った。

「やるなァ……！」

降下していく井村のF-22を早坂はすぐ追尾した。馬力で勝っている井村は間一髪、急上昇に切り変えて振り切ろうとした。しかしただでさえ機敏なF-16のCCVは伊達ではない。しかも、在来系の機体よりもゲテモノ機の方が相性が良い早坂の手である。F-22自慢のベクター・ノズルも、若葉マークの4WS同様さしたる効果は表わせない。空戦技の方は並程度でしかない井村はすぐ追い着かれた。一撃離脱戦法は一度パターンを読まれると、バリエーションが少ないだけに単機空戦では却って不利になる。井村もモロにそれにはまってしまった。出だしは上々だったのに、結果は散々なものだった。井村は、もう一度早坂に空戦技を習う事にした。

9月の本当にどん詰まりになってから、ようやく春日は初雁と「M資金」を見に出ることができた。宇垣は最後までウンと言わなかったのだが、榛名の方が「守る対象を知らないのも変だ」といって、「お許し」を出したのだ。

その場所は、意外にも女子部図書館裏のマンホールの奥にあった。正確に言うと、マンホールの下に地下道があって、そこを懐中電灯を頼りにうんざりするほど歩かなければならなかった。

春日には、案内している榛名がわざと遠回りしているような気がした。地下道はダンジョンの様に幾筋にも分かれていて、勘さえ正しければかなり蛇行して歩いているような気がしたのだ。

やがて広い洞窟に出た。最初は空気の流れてそう感じるだけだったが、やがて榛名が点けた蛍光灯の明かりに浮かび上がった光景に、初雁は腰を抜かしてへたり込んだ。春日は立ったまま言葉を失った。



乾ドックの中の、一隻の駆逐艦。

春日にも見覚えのある型だった。陽炎級駆逐艦。ペンキの色は褪せ、赤錆が所々に吹いていて、とても実用に耐えるとは思われなかった。しかしその主砲は今にも炎を吐きそうであったし、対空機銃はなおも敵機を射落とさんかの様にさえ見えた。

「これ……は……」

「これが、M資金よ」

榛名は絶句した春日の台詞の後を受けて、そう言った。

「もちろん値打ちなんて、歴史的価値だけのもの。初雁から聞いたと思うけど、スイス銀行にある資金なんて、今はもうない……これが、全てよ」

「一体、どういう……」春日は失語症患者のようになっていた。

「マーカット少将が築いたM資金のほとんどは、占領終了後に日本政府に移管された。そしてそれは、すぐに戦後日本の復興資金として、余すことなく使われた」

「所得倍増計画……！」

初雁の口をついて出た言葉に、榛名はうなずいた。

「でも戦後の混乱期に、財産リストからもれた物件も数多くあった。逆に混じり込んだ物件もあった。この陽炎級も、その混じり込んだ一つよ。旧艦名は……雪風」

「まさか！」初雁が呟く。「……雪風は戦後台湾に引き渡されて、台風でスクラップになったはずじゃあ」

「公式記録ではそうになっているわ。でも、あれは雪風じゃなかった。無条件降伏決定後に帝国海軍は、雪風が賠償艦に取られるのを避けるため、この真鶴岬にあった秘密ドックに隠したの。戦後、国威発揚に使うつもりだったか

ら。……その関係書類が戦後のどさくさでM資金リストの中に紛れ込んだ。

後でこのことを知った政府は慌てたわ。雪風ほどの殊勲艦を出し洩って偽物を掴ませたなんて分かったら、それこそ国際問題になるからね。……だから、このことは闇に葬る事にした。雪風も、朽ちるに任せる事にした」

「これって、そんなにすごい船なの？」

受験用の歴史しか知らない春日が尋ねる。榛名は苦笑いを浮かべた。

「太平洋戦争の期間中、戦死者が3人しかいなかったのよ」

「でも、これってここまでして守るような程のものなの？」春日は重ねて尋ねた。「もう大昔のものなんだし、どこかの博物館にでも展示すれば……」

「それは駄目」榛名がさえぎった。

「それをすれば、必ず雪風は汚されるわ。アジアの人々にしてみれば、日本の侵略の象徴でしかないのよ。それでも……」

榛名はそこでしばらく言い淀んだ。

「帰りましょう」

春日たち二人に反対する理由は、なかった。

帰りの道が来る時と全然違ったことから、榛名が周り道をしていることは明らかだった。他に何か隠しているのかもしれないが、単に雪風に気安く近寄られたくないだけかもしれない。それを確認できるような雰囲気ではなかったことも確かだ。

三人が出たマンホールも、入った時とは全然違う場所である。今度は女子部体育館裏だった。

寮の表まで帰ってきた三人は、星明かりの下に人影を発見して立ちすくんだ。巡回の先生かと思ったのだ。

影は宇垣だった。どうやら様子が変わる。

「麻美！」

異状を察して榛名が駆け寄り、抱き起こす。宇垣は胸をどす黒く染めて、ぐったりしていた。

「宇垣さん！」

春日が声を駆けると気がついたのか、宇垣はうっすらと目を開けた。

「榛名、か……」

「何やったの！」

普段冷静な榛名が、すっかり動転した様だった。宇垣の方はそんな事にはお構いなしだった。

「春日……」宇垣は握りしめていたガバメントを、銃身に持ちかえて春日に突き出した。「これをやる……」

宇垣は激しく咳き込んだ。鮮血が傷口とどの奥からほとぼしる。初雁は早くも察へ飛び込んでいた。宿直を呼ぶか、119番か、どちらかだろう。

「一体何したんですか、宇垣さん！」

春日が大声で呼び掛ける。

「ヨナイを、殺せ……！」

「ヨナイって誰ですか！」

大声で尋ねるが、宇垣の注意は榛名に向けられてしまった。

「いつもすまねえ……」

虫の息など、いつもの宇垣からは想像もつかない。

「はッ……だらしねえよなあ……」

「何言ってるのヨッ！」

榛名は泣きながら、宇垣の上体を抱き締めた。血で汚れることなど眼中にないかのようにだった。

「大丈夫、傷は浅いから……！」

「姐御……！」

察の中から宿直と初雁、それにやじ馬が駆け出してくる。遠くの方から救急車のサイレンが聞こえてきた。

警察の捜査で、宇垣を撃った弾は22口径、サイレンサー付きの銃が使われたことが分かった。貫通銃創で急所は外していたため致命傷には至らなかったが、それでも肺と気管支を痛めており、全治2カ月が宣告された。後日春日は榛名たちに「ヨナイ」の正体を確かめようとしたが、その答えはどれも「知らない」というものばかりだった……

その他のリアクション（含公開私信）

・東 大鳳

文化祭では空手部の実演で黒子となる。中1では未だ実演まではさせてもらえない。他の行動も、1年ではほぼ実現不能。もう少し足場固めを。

・満月 聖良

行動計画は？



- ・井村 真知子
特になし。
- ・早坂 理絵
もう少し持続性のある行動を。
- ・影月 多紀
特になし。
- ・榊 裕
特になし。
- ・立花 陽明
特になし。
- ・エディ 光次郎
指定装備品は影月君のヒューイコブラ。クラブは軽音班。
- ・菅原 絵馬
特になし。
- ・朝比奈 美雪
特になし。
- ・梅田 香奈
行動計画は？
- ・春日 千明
最近どうもオチャラケに飢えてて…
…すまぬ。
- ・伊藤 早苗
軽音班のイニシアチブはそっちで取
って下さい。こっちはその手に疎いの
で、任せられてもお手上げです。
- ・坂井 法子
できれば今回で立ち直って欲しい。
これ以上ディープになられると、私
の方もディープになってしまう。

ハイ、如月まどかです。本日は文化祭
特集、郷土料理大会の模様をお送りい
たします。まずは開場を解説いたしま
す。この大会は男子部の運動場をぐる
り取り囲むように設けられた屋台に、
有志の生徒たちがそれぞれの故郷の郷
土料理を出品して、その味を競うもの
です。この大会で得られた収益金は、
真鶴市内の老人センターの運営資金と
して寄付されることになっております。

さて、会場では既にコンロに火が入
っておりまして、あちこちから様々な
匂いが漂ってきております。

…ここは何やってるの？

東大鳳：「チキン南蛮」に「レタス巻
き」、先輩も一つどうですか？

如月：…あ、有難う。…うん、ま
ずまず…はいいけど、これって郷
土料理だっけ？

東：えーっ！ 如月先輩も知ら
ないんですか？弱ったなあ、これっ
て宮崎で始まった料理っすよ？

如月：あ、そうなんだ。初めて知った。
で、面白いのは、「南蛮」なのにタル
タルソース使ってたよね。名前
聞いただけだとカレーがかかっている
のかと思うけど。鶏のから揚げにこ
のソースかけるだけでいいの？

東：そうっす。

如月：レタス巻きは…うん、レタス
でエビとマヨネーズを巻いて、海苔
巻にただけだね？これだと、もし
かするとエビはともかく、寮でみんな
やってるかもしれない。エビの代
わりにシーチキン使ったりして。い
じゃ（それじゃの略で、如月がたま
に使う）、ごちそうさま。

私はとりあえず学校サイドでの取
材って事なので、ここで試食する分
には全部ロハです。役得役得。

ああ、隣も宮崎料理だ。こっちは何かな？

榊裕：「酒ずし」と「冷や汁」です。

如月：そういえばこの臭いは……ごめん、私日本酒は臭いだけで酔っちゃうんだわ。……冷や汁ってのは？

榊：こっちはですね、いりこを煎ってからすり潰して、みそに混ぜてから出し汁を加えるんです。

如月：なるほど、いい手付き。

榊：仕上げにキュウリとゴマ、シソの葉を入れて出来上がり。わりとあっさりしてておいしいですよ。

如月：……ちょっと出しが利き過ぎてるような気もするけど……まあまあってとこかな。でも普通の味噌汁みたいな感じだね……うん、ごちそうさま。

「お昼だよ。」はリアクションがまるで読み書きと新しい発見があって面白いらしい。おっ。



如月：やあ、久しぶりにまともな料理に出会った感じだ。こちらはタコ焼き、さすがにネームバリューも手伝って、結構な人気だけど……ちょっと早坂、あんた何してんの、委員会の仕事もしないで！

早坂理絵：ここはウチの屋台やで！それにちゃんと先輩にも言っといたやんか！

如月：……そうだったっけ？まあ、こ

こはいいでしょう。わざわざ解説するまでもない。さて次は……

早坂：ちょい待ちや！ほら無いで、ちゃんとレポートしたってや！

如月：レポートったって、ただのタコ焼きじゃんか！

早坂：本場直送の材料に本場仕込みの腕や！まずい訳ないやろ！

如月：ほんならほれでなおレポートの必要は無い、と。やあ、こっちは鍋ですか？いや、キリタンポ！当たり？

菅原絵馬：大当たり。

如月：この何か固そうなのはとりがら？

菅原：あ、鶏肉煮るだけでもイんだけども、今回はちょっと良くしてみたんで。

如月：でもこの時期に鍋物とは、また度胸があるね。売れてる？

菅原：まあ、ぼちぼち、という事で。

如月：そう……？このキリタンポなんか、もうぐずぐずに煮えちゃって……あ、崩れちゃったよ。結構おいしいんだけどねえ、時期がまずかったかな。

さて、一通り紹介し終わった訳ですが、いかんせん校内放送で絵がお届けできないのが辛いところです。それでは皆さん、ごゆっくり……

はみだし Q & A

Q：人事異動で影月のコブラの射手となっていました、射手と操縦する人って同じ人がするのではないですか？

(E. 光次郎)

A：同じ人がやることもできますが、二人で分担した方が良く当たり、良く逃げられます。影月君とエディス君は仲が良いので、その辺のコンビネーションも抜群だろうと判断した訳です。



Live at MANAZURU

DI

今回のPC及び主要NPC（保留2）

中学 男子部 1年A組 東 大鳳
女子部 1年A組 （満月 聖良）
2年A組 有明 みどり 井村 真知子 早坂 理絵

高校 男子部 普通科
1年A組 影月 多紀 榊 裕 立花 陽明
3年F組 加賀 実
理数科
1年G組 エディ 光次郎
2年H組 菅原 絵馬 鳩山 平和
3年G組 赤城 広義

女子部 普通科
1年A組 朝比奈 美雪 （梅田 香奈） 春日 千明
2年A組 伊藤 早苗 坂井 法子 初雁 つばめ
F組 永野 伊勢
3年D組 霧島 宏子 栗田 はるな 長門 洋子 扶桑 和子
F組 宇垣 麻美 如月 まどか 栗田 榛名

校長から

朝比奈さん、ごめん。こういう事なんです。

さて、読んでておわかりと思いますが、今私は不調の溝にはまっています。天気が悪いせいにはしたくないけど、それも大きな要因の一つだとは思う。天候不順てのは本当に憂鬱になるし。あとは、一ヶ月のインターバルがあったお陰で「考えなくていい」生活に身体が順応してしまったってのもあるのかなあ。とにかく、今月は特に辛かったっす。

今回困ったのは、それぞれの行動に他のキャラクターがかんでいないのがたくさんあったこと。これは本来、自分でもその気になれば書けるはずだし（送ってくれば、文章の巧拙関係無しに載せるよ）、オフィシャルで書いても「それで？」で終わる危険性が大。実際、「で、それから？」で言いたくなる一発型の行動が最近多すぎるよ。「白雪姫」についても状況次第では春日さん一人のリアクションで終わったかも知れない。ぜいたくな望みかも知れないけど、もう少し持続性のある行動を考えて欲しいな。

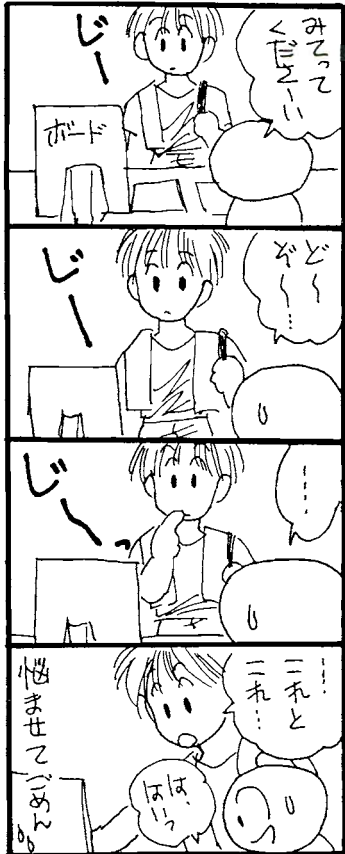
それから、今回のルール改正でDMシステムの仕様にも若干修正が入りましたので、事前準備なしに校舎／校庭上空（海岸の模型部領域を除く）を飛行できるのは今回が最後です。今後は事実上不可能だと思って下さい。外部からの「上空侵犯」もできません。ただし小田水のそれは例外で、対抗戦のためにビーコンが常設されているものとします。ただこれも、飛行機が無給油で両校を往復するのはジャンボ級の機体で觥一杯のところだと考えて下さい。

今回は風紀委員関係の方でもう少しイベントを起こす予定だったのですが、時間切れです。次回以降に何とかしますが、このタイムラグが埋め合わせできるかどうか。

最後に。「マヅルじゃないっ！マナヅルっ！」

……いや、こないだの梅小路で間違えてるのの3人目が発覚したもんで、よもやほとんどの人が間違えてるのではないかと……

イベントはサークル参加の私。



何分ぐらい立ってたら...!



★私のサークルは何故か男性の応募さんが多い様です(友人にもよく云われるし、委託先でもそうらしい)そんな中で印象に残った(?) 市販の事をちよろと描いてみました。

BY たただのりな

★女性の中でもキョーレツな方(笑)は沢山いらっしゃる。また機会があったら描くかもしれない...
 なんとせよマスターは守りますよ。お互い...



イベントでは、スナリドラゴンホールの人となってるらしい...
 しんげ



三等 居室 雑

カードゲーム・ギャラリー

F A。

☞上級大佐は攻撃隊に加われるのですよね？まさかファントムでずっとゲリラ相手ということになると哀しいことになってしまう。それこそナム戦の再現ということになりましようか。

とりあえずよーやくここまで来たわけですが、段々オプションが発達して、金計算が面倒になっている（笑）それに目一杯積んだら、かなりの兵器を積めるからなあ。なかなかバランスが難しい。

まあ、世代もかわってきたことだし、ポチポチいきますか。ちなみにFOX AWAYではプレイヤー向けワンポイントアドバイスの欄を設けたらどうでしょう。例えば「ゲリラにはナパームがよく効くらしいゾ」（プリプリ博士調）とか。

それにしても定職があるということは、一週間の大部分を拘束されてしまうことになる。大部分の人間がそうやっているわけだが、実際の話、最近は遊ぶのがシンドクなってきた。これはちょっとマズイと思うのだ。ま、なるようになるんだろうけど……

（東京都・篠原崇）

☉イベント来てよ～……篠原さんは菅原さんや秋信さんと並んで「初期の空技廠」を知る数少ない長老だし、積もる話も山とありましよう？年齢差なんかOUT OF 眼中ですぜ。

でオプションですが。これがASシリーズの処理を遅くする元凶でもあります。処理ミス誘発し、誤植を誘発し、資料漁りの足を引っ張り……いい事は何も無いのだけれど、ゲーム性を出すには最低限は出さなきゃならない。空戦PBMがよく陥り易い「装備品大図鑑」はASシリーズの趣旨（簡単にできる）に反するし、その妥協の産物があれってことです。本当はもっと簡単にできるけど、それじゃ某PBMのコピーだし……ああしんど。



ヒマ

6. 増加装甲

スタッフ



使用時期:自分の番 / 使用后:付ける(1)

これをつけたスタッフの危険度は-1される。



手ヌキ

31. 油断

ACCIDENT!



使用時期:ただちに / 使用后:捨てる

各エディターは順番にこのカードを引いたエディターの出版物を1回攻撃できる。反撃は一切できない。



免許。

◎夏休み一杯かけて、普通免許取りに行ってみました。実技は何と5時間オーバー。(実は未だ卒検が済んでない)学科の時は嫌になるくらい晴れてて、実技の時はうんざりする程降るか夜、という極端な気象状況のもと、何とか今のところは無事故です。一番印象に残ってるのは3段階の「高速旋回」でしょうかね。これは「オーバースピードでカーブに入ったときの危険性」を体験しておくための項目なんですけど……この日もやっぱり雨だった。免許お持ちの方はよくご存じでしょうが、雨の日ってのはとにかく良く滑る訳です。事前に指導員も脅かしてはくれたのですが、いざカーブに突っ込むと、何もしてないのにテールが流れた!ドキンとなった私は指導員とほとんど同時にパニックブレーキを踏んで、遮二無二逆ハンを当てていたのでした。

結果——四輪ドリフト(の様なもの)。

血圧は上がるし、指導員には怒られる(スピードの出しすぎ)し、散々です。皆さんもこの種のスリリングな体験ってありませんか?

(編集・菊地研一郎)

MD。

今、メガCDの「SILPHEED」をやっております。こいつは擬似3Dのシューティングゲームですが、グラフィックの素晴らしい事!全部ポリゴンで描かれた画面はアーケードゲームと言っても良いほどです。メガドラユーザーは一見の価値アリですよ。そしてメガドラがマニア向けのマシンであることを再確認したのですが、このゲームのオプションウェポンにGraviton Bomb(重力子爆弾) Photon Torpedo(光子魚雷)というものがあったことです。このことを指摘した友人は、ガイナックスが制作に協力しているらしい、と言うのでした。私はそれに頷きながら、ふと彼が浪人であることを思い出したのでした。

(茨城県・菊地研一郎)

菊地(編)

33. 愚劣指揮官

ACCIDENT!



使用時期:ただちに / 使用后:捨てる

このカードは引いたエタターにつけられる。これが除去されないかぎり、いかなるサイの目もこのエタターに不利なように+1または-1される。また、このカードは優秀作者カードの効果打ち消す。

⑤・・・何で浪人する連中の中にはマニア様が多いのであらふ。・・・んなことじゃなくって。

「シルフィード」がいかに凄いソフトかについては、今年の春ごろから主にKAF C(駒大アニ研)内で話題になっておりまして、よく存じております。しかし悲しいかな、菊地にはメガCDの本体も、またそれを買う金も無いのでした。シューティング下手クソだし。嗚呼。

広告ご意見無用。

最近のJR東日本の広告には目を覆うばかりである。昔風の絵柄を使って、名画の題名などをパロディにしているのである。

いわく、「成田の連絡線」(涙の連絡船)、いわく、「ターマの休日」(ローマの休日)、いわく、「快速ホリデー仮面」(?)。ここまで来ると「えげつない」を通り越してただ呆れ返るばかりである。これが中吊りはもとより駅貼りにもなっている図は、さながら昭和30年代の観を呈している。

もしかすると関東エリア限定なのかも知れない。(頼むからそうであって欲しい)全国区でのレポートを求む。(編集部)

横浜で遊んだこと

こちらはまずまずってとこでしょう。内輪関係の水増しもあったお陰で8名フルメンバーでの対戦もできたし、前回同様堀尾さんの「ストII全員抜き」も私の「全敗」も出たし。敗えて悔やまれる点があるとすれば、後半あまりにもズルズル行き過ぎたという点でしょう。これは前回から残されていた課題なのですが、ゲーセン内で2次会をやる限り解決は望めないのかも知れません。その回答の一つが「カラオケ」だった訳ですが、緒事情によって挫折。ただ金銭的にはあの規模なら、カラオケ2時間やってた方が、安かったかも知れない。散会もシンプルにできたかも知れないし、いろんな人ともっと話せたかもしれない……。もしかしたら、もしかしたら……。

また新年ぐらいにこの種の企画は予定しているので、よろしければ御出で下さい。

孝行の代理の
エリ姉

実娘



何をどう言っ
て
みても 言訳にしか
なんねーよ…
あたいのせいさ!!

事情があるんなら
どうして
話さなかったの!!



ほ

だから

ごめん…!!



あはははっ
大丈夫よ
誰も読んで
ないから

おい…
なにぞ?



ふっ!



と、いうわけで、
LOOK OUT! は落ちました、5ch 5ch

本日のおすすめメニュー

超兄貴

CD&PCエンジンCD-ROM²

国産コンシューママシンの中で一種独特なオリジナルソフト（一言で言えばカルトな）が数多く発売されるPCエンジンですが、本作品はそれらの中で特に異端なソフトです。

ゲームのタイプは一般的な横スクロール型シューティングゲームですが、ビジュアルシーンが筋肉ムキムキのマッコマンであふれ返り、「兄貴ィー」と男らしい野太く惚れ惚れする肉声で（なんせCDですからミョーにリアルで脳髄にビリビリときます）サンプリングされたBGM、一言では説明することのできないヘンな敵キャラ（くるくる回るトノサマの首とかクロールを泳いで突進してくるパンツ男とか）等カルト度満点です。

ゲームのストーリーは、ボ帝ビルがプロテイン採掘プラント拡大のために他の惑星に進攻を開始したのを天界で見ていた韋駄天と弁天（プレイヤーキャラクター）がこれを阻止し、ボ帝ビルを倒す、というものです。

ゲームのタイプは1プレイ専用のシューティングゲームですが難度を3段階の中から並ぶことができますのでプレイヤーの好みでゲームの最初に設定できます。キャラクターは韋駄天と弁天の2人の中から一人を選択できます。それぞれはショットボタンをためることでのため技（Iボタン）が



き、韋駄天は波動砲、弁天はブーメランのような弾を大量にばら撒きます。IIボタンで画面上のザコキャラと弾を一掃するボムが使い、パワーアップアイテムは「プロテイン」。オプションはアドンとサムソンのマッコマンコンビ、他に小便小僧のような天使とハニワ?がランダムで出ます。ちなみに付けたオプションにもため技があり、プロテインを取らせるとパワーアップします。ここまで書くと以外にまともな感じを受けるかもしれませんが、実はその通り、ゲーム自体はかなりまともなシューティングです。ただし雰囲気がただ者ではないのです。プレイしててBGMとビジュアルシーンに注目！なのです。（PCエンジンらしいですね）

このゲームは昨年12月に発売されて以来そのカルトさ故か慢性品薄状態が続き、7/10までに2度再販されています。（僕自身は1度目の再販の時に手に入れました）8月中旬頃に秋葉原に出かけたときにはまだ在庫もあり、店頭価格5000円程度で販売されてました。あくまで噂ですが、かアーケードにも移植されたとのこと。PCでプレイできない人はゲーセンで探してプレイしてみてください。（もう既に2の開発も始まっているとか…）

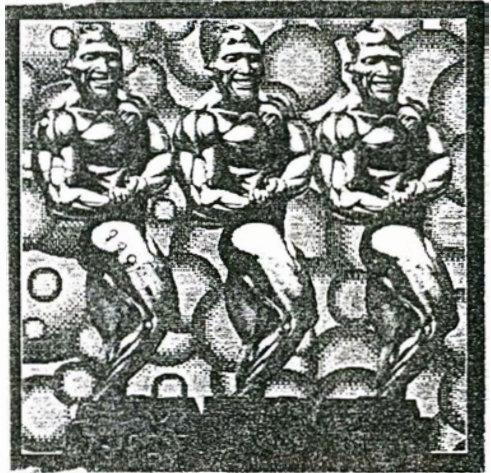
ゲームシステム自体は特に目新しいものはありませんが、BGMとビジュアルシーンが実に斬新で気味の悪い、しかし面白おかしいノリのマッコブラザーズに洗脳されること間違いありま

せん！僕回りでも超兄貴を遠慮していた人もBGMを聞くようになりましたし、最近では僕が「兄貴ィー」と叫ぶとの妹が「もうだめだぁ」とツッコムようになってしまいました。

ところでこのゲームは人によって、ものすごく評価が分かれるのもまた事実です。好きな人は一押し、嫌いな人はとことん嫌ってます。使用前は必ず指と体を鍛えておきましょう。(笑)

PCエンジンでゲームをプレイできない方には異様な空気を漂わすイラストが目印のCD BGM集「超兄貴ー兄貴のすべてー」をオススメします。(ちょっとコピー写りがよくないんで印刷されたときにちゃんと出るか心配ですが)元々CD-ROMのゲームですのでオリジナルの曲が32曲およそ53分の大半を占めています。アレンジバージョンも6曲入っていますが僕のオススメは最初の曲「ANIKI01」と最後の曲「兄貴と私」です。

いずれの曲も大脳直撃、洗脳確実モノです。曲自体もノリがよく、某誌の評論するところでは「ディスクでかかってもおかしくない」とされています。曲中のヘビーな男のサンプリングに大爆笑！さあ今すぐCD屋にレッツゴー！兄貴ィー！（←洗脳されてる）
※補足 8/21にCDシングル「仁義なき兄貴」も追加発売されました。ライブコンサートやカラオケバージョンなどが入り、おまけに兄貴ブロマイドがついてきます。こちらは右のマッショマンがポーズを取るそのバックで原爆？の茸雲がたち上る、というジャケットが目印となっています。(実は僕自身こっちはまだ聞いてないんでこれ以上の説明は勘弁して下さい。)



PCエンジン SUPER CD-ROM²専用ソフト 分類：ゲームソフト（筋肉なシューティングゲーム）
超兄貴 メーカー：NCS メサイヤ お値段：定価 ¥7,800

BGM集 超兄貴ー兄貴のすべてー 分類：音楽CD 作者：葉山宏治
メーカー：NECアベニュー(NACL-1088) お値段：¥2,800

仁義なき兄貴 分類：音楽CD（シングル） 作者：葉山宏治
メーカー：NECアベニュー(NADL-1061) お値段：¥1,200

緊急通達 王虎闘史

前号で発売予告をしました王虎闘史のルールブックですが諸他の事情により発送が遅れております。まことに申し訳ございません。心よりお詫び申し上げます。既に何名かの方にはルールブック代の小為替¥500をお送りいただいておりますが、ルールブックは10月下旬頃の発行予定となりましたのでご了承願います。なお、今までにルールブック代を送っていただいた方にはお詫びとして王虎闘史別冊の王虎宴第2号の発行後これを無料でお送りいたします。なお本対戦型ファンタジーPBM王虎闘史はまだ参加者を募集しておりますので参加する気が向いた方は小為替で¥500分を編集部までお送り下さい。(なおこれは税、返送費込みのお値段で分冊各40P位のルールブックが発送されます。詳しいルールはこちらをご覧ください)

読者参加対戦レポートストII' in横浜 PART 2

猿、じゃなくて去る9月5日に菊地編集長が主催しました第2回読者参加対戦バトルテック大会は参加者がなんと6名+編集者2名の8名フルメンバーが揃いまして大成功に終わりました。参加して下さった読者のみなさん、誠にありがとうございました。中にはとんでもなく遠いところから御足労頂いた方もおられました。本当にご苦労さまでした。バトルテックそのものの対戦結果は別のページで編集長が紹介していると思いますので僕はストII' 対戦の結果を簡潔ではありますが報告いたします。

まずなぜ今回もストII' ターボではなくダッシュだったかというと前回に引き続き単体のターボの台がなかったためです。対戦方法は今回も総当たり戦で行いました。キャラクターの選択は自由、2本取って対戦相手に勝利したら1ポイント獲得、総ポイント数の一番多い人が優勝となります。

今回の参加者は最初に1名がバトルテックが終わった後に抜けましたので7人で行われました。

| 勝ち星 | 1P | キャラクター | 2P | キャラクター | 勝ち星 | 順位 | 名前 | ポイント |
|-----|-------|--------|-------|--------|-----|----|-------|------|
| 2 | 堀尾さん | ガイル | 林さん | ケン | 0 | 1位 | 堀尾さん | 6 |
| 2 | 堀尾さん | ガイル | 渡辺さん | バルログ | 0 | 2位 | 渡辺さん | 5 |
| 2 | 堀尾さん | ガイル | 菊地さん | ブランカ | 0 | 3位 | 田中 | 4 |
| 2 | 堀尾さん | ガイル | 岩屋口さん | ブランカ | 0 | 4位 | 菊地さん | 2 |
| 2 | 堀尾さん | ガイル | 編集長 | 本田 | 0 | 4位 | 林さん | 2 |
| 2 | 堀尾さん | ガイル | 田中 | ケン | 0 | 4位 | 岩屋口さん | 2 |
| 0 | 編集長 | 本田 | 岩屋口さん | 本田 | 2 | 7位 | 編集長 | 0 |
| 2 | 菊地さん | 春麗 | 岩屋口さん | 本田 | 0 | | | |
| 1 | 菊地さん | 春麗 | 林さん | ブランカ | 2 | | | |
| 1 | 編集長 | 本田 | 林さん | ブランカ | 2 | | | |
| 2 | 渡辺さん | ブランカ | 林さん | ブランカ | 0 | | | |
| 2 | 渡辺さん | ブランカ | 編集長 | 本田 | 1 | | | |
| 2 | 渡辺さん | ブランカ | 菊地さん | 本田 | 0 | | | |
| 0 | 林さん | サガット | 岩屋口さん | ガイル | 2 | | | |
| 2 | 渡辺さん | ブランカ | 岩屋口さん | ガイル | 0 | | | |
| 2 | 渡辺さん | ブランカ | 田中 | 春麗 | 1 | | | |
| 0 | 編集長 | 本田 | 田中 | ケン | 2 | | | |
| 1 | 岩屋口さん | ガイル | 田中 | ケン | 2 | | | |
| 1 | 菊地さん | ブランカ | 田中 | ケン | 2 | | | |
| 1 | 林さん | リュウ | 田中 | ケン | 2 | | | |
| 2 | 菊地さん | 春麗 | 編集長 | 本田 | 0 | | | |

対戦結果は図のようになりました。前回優勝者の堀尾さんが今回も引き続き2連覇を全て負けなしの完勝で成し遂げました。おめでとうございます。そしてこれも記録と言えます記録、編集長の全敗記録も2連覇を果たしてしまいました(笑)そこでこうなったらストII対戦者募集ーッ!(CV:福沢明)向かうところ敵なし無敵の帝王、頂上人堀尾氏を負かすのは俺だ!と豪語するあなた!横浜で対戦フ

アイヤーッ!チャレンジャーは次回のバトルテック大会に参加申し込みをして下さい。(ただ行きたいと書いてくれればOK!ただしこの企画は僕が今ここで考えついたものですので次回の開催日程ならびに堀尾氏の参加、実際に開催されるかも含めては全くの未定です)ご応募お待ちしております!

PS.ストII後に餓狼伝説IIで対戦を申し込み(と言うよりお願いしたんですが)ましたがここでも堀尾さんは無敵の強さを発揮して林さんのテリー、渡辺さんの金、僕の舞と対戦、金で全勝してしまいました。餓狼伝説スペシャルでリターンマッチを是非ともお願いします!でもあのアチャチャチャの鳳凰脚がこわいな... (←懲りてない大馬鹿三太郎)

筆・本居の先輩

皆さん、こんにちは。本居の先輩です。

今回は、某『MAYA』が休載のため、手のあいた私が、今年の夏コミをレポートさせて頂くことになりました。それでは皆さん、どうぞよろしく。

8月16日、夏コミ二日目。

さてこの日、私が目覚めたのは、午前4時30分の事でした。

そして出発が4時45分。うーん、早起き。

なぜこんなに早く出発するのかといいますと、それはひとえに私の住んでいる所が、田舎だからなのです。

何しろ最寄りの駅まで自転車で40分、更にそこから東京駅まで約2時間弱、その後はバスで約30分。

いやはや、さすがは『神奈川の子ロリン村』（笑）。

というわけで、私がコミケ会場に着いたのは、午前7時30分の事でした。

さて、東京駅からの臨時増発バスに乗り、コミケ会場についた私が思わず驚いてしまったことが一つ。それは、

「あ、雨が降ってる！」

何しろ、去年は台風三つに囲まれながら晴れた（笑）というぐらい、コミケの日はよく晴れるのですが、それが今回は、小降りとはいえ、雨が降っていたのです。

さすがに、今年は異常気象だなあ、などと思いつつ傘を差して、既に多くの一般入場者が待機する駐車場へと向かったのであります。

もともと、例年のようにからっと晴れ上り、30度を軽く越す炎天下で並ぶより、数段ましでしたが（実際、去年も何人も倒れてた）。

時折パラつく雨に悩まされつつも、待つこと約2時間半。ようやく、開場の10時……なのですが。

そんなにすぐ入れるほど、コミケは甘くありません（笑）。

先に待っている人から順番に横4列で縦に並び、そのまま入場していくのですが、何しろ参加人数がただ者ではありません。昨年は述べ25万人に達したというほどです（ちなみにこの数、某クリントン大統領就任式の参加人数と同じだったりする）。

その上、整列開始の午前6時には、前日付近のホテルに泊まったり、晴海公園で徹夜したりした人が、早くも大勢で列を作っているのです。

従って、私が入場できたのは、1時間遅れの午前11時。

しかしこれでも、かなり早いほうです。途中で8列まよめ入場にきり変わったようですし、私より後から並んだ人も、それこそ大量（万人単位）にいましたからね。

本来、入口近くで売られているカタログ（入場券代わり）は、やっぱり、とっくに完売してました。

さて、入場できた頃には、既に雨もあがっていたので、例年に比べて、かなり楽にサークル巡りもできました（あくまで例年に比べて、ですが）。

というわけで、まず私が最初に向かったのが、“創作（少年向）”“ファミコン系”のB館。このあたり、軍事よりゲームを愛する私らしい。

ちなみに、『少年向』というのは、「18禁じゃないよ」と、いうことです。いわゆる一般向な本ですね。これと似て非なるのが、『男性向創作』で、これは……まあ、なんとなく判るでしょ（笑）。

ついでに言うと、このB館、私にとっては、

『ゲーム・某雑誌関係の集会場』

と、なりますか。

ここで本を売ってる人を、ちょっと挙げてみましょう。

六鹿文彦さん、横山ひろこさん、Dr. モローさん、佐々木亮さん、宮須弥さん、ここまひさん、見田竜介さん、吉崎観音さん、大乃国ぼんさん、高崎吏生さん、松玉紺之助さん、前島あるみさん、永井朋ひろさん、などなど。

六鹿さんは、『Sonic Wings』のキャラデザの人、と言えば、判る人も多いかと。横山さんは、六鹿さんの奥さん&SNK（NEO・GEOの会社）の社員。

Dr. モローさんや佐々木さん、宮須弥さんは、RPGマガジンなど読んでる人は、ご存じかと思います（Blowの読者で、何人読んでるかな）。

以下の方々も、まあ、知ってる方は知ってるかと（知らない人、ごめんなさい）。

その様な訳で、ここはかなり混雑していました。それでも、自分の進みたい方向に行けるだけ、ましでしたが。A館や新館一階に比べれば、B館などツ（笑）。

それに、混んでいるのは、いわゆる人気サークルの周辺だけで、それ以外は、比較的すいていましたし。

ますと。

「はっきり言って、不作だね。」(CV:三沢光晴)

まあ、正確に言いますと、自分の趣味にあった本が無いってだけなんです。

私の場合、お金がない上、自分と似たような趣味の友人(例その1:前述のA君)が数人、前日から徹夜で来ていましたので、そこそこ面白い程度では、

「多分、先に買ってるだろうから……まあ、いっか。帰ったら、見せてもらおう」

となってしまう。

それに、最近のコンシューマ系って、似たような本ばかりだし、オリジナルは、趣味合わないのばかりだし、イラスト本は、最初っから買う気ないし。(うわー、ひどい事書いてる)

ところで本当に、何で今年のコンシューマ系って、DQやらFFやらストIIやらの本ばかりなのでしょうね。中身も似たようなものばかりだったし……。やれやれ。

どこかでMETAL MAX本とか出してくれないかな。(個人的趣味)

そのような訳で、私がここで買った本は、1冊だけ(笑)。それも宮崎アニメ版の『名探偵ホームズ』本。(著:前島あるみさん&しやんさん)

ゲームとはいまいち関係なかったりする(笑)。

それにしても、まさか今年になって新作のホームズ本が出ようとは……。さすがコミケというべきでしょう。

さて、時計の針が正午を指すころ、私は次の目的地である新館二階へと足を運んだのです……。が。

「何じゃあ、こりゃあ!？」(CV:松田優作)

そこには、新館の周囲を埋め尽くすほどの、とてつもない数の人間がいたのです。

それはどうやら、一階に向かう方々の様ですが、今年は昨年に比べ、かなり多いようです。思わず、近くにいた係員に向かって、何ですかこれは等と聞いてしまいました。さすがはA館と並ぶ、コミケの人気スポット(笑)。

解説いたしますと、今年の新館一階は“男性向創作(18禁のことね)”“アニメ&魔法少女”、そしてとどめに“セーラムーン”!!

これは、人が来ないって方が不思議ですね。

と、いうわけで、私は血気に逸る男達(含微量の女子)の列をかき分けて、新館二階へと向かったのです。

階段は少々混んでいましたが、たいした苦労もなく、二階へとたどり着けました。

新館二階のラインナップは、以下のとおり。

“アーケードゲーム”“ゲーム一般”“SF”“軍事系”“ファンタジー”“外国TV&映画”“特撮物”、その他

もろもろ、となっています。

まあ、早い話、“何でもありっ”なんです。

ある意味で、コミケの一面がもっとも如実に表われている場所でもありますね。

さて、私は例によって地図を片手にしてのチェックを開始しました。

そしてまず最初に回ったのが、軍事系……。じゃ、ないんです。すみません。

それより先に、山本弘さん(SF作家・ゲームデザイナー)が参加しているサークルに寄ってきたのです。

ちなみにこの人のサークルは、Blow16で紹介された、ノストラダムス本の原版を作ったところです。昨年はその本の他にも『超絶図書館』という、とてつもなく危険かつ面白い本を出しておりまして、今年はその続編が出てるとい話だったんですが……。出てませんでした(笑)。

その他に売られていた本もあったものの、あまり好みではなかったので、さっさと引きあげて軍事系に向かうことにしました。

軍事系で最初に回ったのが、Blow関係者がいるというサークル、『北総新撰集』でした。まあ、あいさつ代わりにすね。

そこで『不滅のネイビーブルー』なる本のVol.2と3(4は落ちたそうで……)を購入すると、アンケートを依頼されたので、気軽に受けたのですが、どうも寝不足と館内の熱気とで、頭がぼえぼえになってみたい……。『影の黒幕』さん、変な字で変な事書いてどうもすみませんでした。

本自体の内容ですが、一言で言いますと旧日本海軍中心の「ヲタクな本」です。これは、でも私、こういうの好きです。

次に回ったのが、『ねこにいプロダクツ』。これも軍事系です。

ここでは、『戦場の目撃者』という本を購入。いえ、正確にはファイルと言うべきでしょうか。戦場写真を模写した絵と解説文が書いてある紙が20枚ほど、中表紙と共にファイルに閉じてあるだけです。

こう書くと、なんだか手抜き本のように思われるかも知れませんが、とんでもありません。A4版(Blowより一回り大きい)の上半分を使って描かれた大判のイラストは、非常に美しく、かつ、迫りに満ちています。また、題材の写真の選択も良いです。

余談ですが、この本を買っているときに、館内放送がありまして。それは、

「ただいま、新館一階は、入場制限を行っております」

……。いったい、何人押しかけたんでしょうか。

さて、事前にチェックしておいたブースも回り終えて、恒例のローラー作戦に移ったのです……。が。

先程も申しましたように、この時点で私の頭はぼえぼえ状態だったのです。

その様な状態でしたから、サークルを見て回っていても、途中で何がなんだかわからなくなる始末。やむを得ず、外に出て昼食&休憩にする事にしました。

このとき、時計は一時を指していました。

外に出ると、適当なところを見つけて腰掛け、“食餌”にとりかかりました。内容は、手持ちのアンパン2つに紙パック入りジュースという、まさに“食餌”としか言いようの無いものですが。

一応、会場内にも軽食店や売店があるのですが、人が多すぎてとても並ぶ気になれません。それに、味の方も並んで食べるほどではありませんし。

シュール君やアクション仮面が歩いているのを眺めつつ15分ほど休んで、そして手近なゴミ箱にゴミを捨て、ついでにこのレポート用にきれいなカタログをゴミ箱から拾って（笑）、サークル巡りを再開しました。

休憩中にこのレポートの事を思い出した私は、とりあえず他の館内も回ることにしたのでした（別に忘れてた訳じゃないんですが、すっかり呆けてて……）。

休憩後、最初に回ったのは東館でした。ここは、その特異な建物の形から、通称“ガメラ館”と呼ばれて親しまれております。

ここに入っているサークルの分類は、

“小説系FC（ファンクラブ）”“少年系FC”“歴史・文芸”、そしてとどめに“JUNE・耽美系”と、なっております。

ちなみに、“JUNE・耽美系”とは何かと解説いたしますと、いわゆる「やおい本」の事ですね。

さらに「やおい本」とは何か、と申しますと（Blowの読者で、何人わかったでしょうか）、まあ一言でいいますと「女性向の男性同性愛本」ですね。

男性向の同性愛本との違いですが、男性向はやたら「兄貴」「男」しているのに比べ、女性向は、「こ、これが男の子一つ？」と思ってしまうぐらい、キャラクターの中性化・女性化が激しいのですね。しかも、出てくるキャラはみな美形・細身だし……。

さらに、どんなものか詳しく知りたい人は、お近くの書店の成人コーナーについて『JUNE』という雑誌を読んでみてください。よくわかります（笑）。（今気がついたけれど、私は一体、長々と何の説明をしているのでしょうか）

早々に次の話題に移るとしましょう。

この館内は、さすがにお客も売り子さんも、女の子が多いです。男女比3：7ぐらいでしょうか。

館内の様子も、新館やB館に比べると静かです。ただ、並んでる本の所々に、前述の「やおい本」があるのは、ちょっと困りますね。（三国史本を開けたら、中で美形の曹操と呂布が絡んでた……）

ここでは、特に何も見るべきものはなかったため、15分ぐらいで立ち去りました。

次に私が足を向けたのは西館です。

ここは“創作（少女）”“少女系FC”“学校の漫研”“洋楽系”、その他もろもろです。

これも女の子ばかりで、静かです。東館よりは、Blowの読者にも、馴染みのあるところかもしれません（学校の漫研に所属してるとか、洋楽のファンだとか）。

ですが、どちらにも関係ない私は、やはり15分ぐらいで立ち去りました。

その次に向かったのはA館です。

ここは、いわゆる“売れ線”系のサークルばかり集めたところで、コミケ開始直後は新館一階と並んで修羅場と化すところですよ。

ですがさすがにこの時間帯は閑散として、ほとんど人影はありません。

ただ、“売れ線”とは言っても、私個人としてはほとんどの人は「誰よ、これ？」でした。

そうそう、少し自慢させていただくと、今年から某少年&四コマ漫画家のFC（含本人）がこちらに移ってきてるんですね。ところで私は、先生がマイナー時代からのファンでしたから、去年、先生の直筆サイン入り同人誌をいともあっさり手に入れてたんですよ。だから今年、先生の同人誌目当てに並ぶ人々を見ながら、ちょっとした優越感を味わってました。（なんなんでしょうね、私って）

そういえば、先生、雑誌で「原稿が間にあわない」と言っていたのですが、大丈夫なんでしょうか。聞いた話だと、御本人が売り子をしていたとかで……。

次は南館です。

ここは、“高橋留美子系”“コンピュータ系”となっています。

ここは一応、異様なまでの混雑です。自分の進みたい方向に進むのも、容易ではありません。

ここでは一応、98用のソフトを探して歩いたのですが、今年はこれという物はありませんでした。

しかも、これも年々異常な雰囲気になってきました。何しろ、なんの恥ずかしげもなく18禁のスケベソフトの画面写真を何枚もはりつけた看板を、堂々と自分立ちのブースの前に飾っているようなサークルが、あちこちにあるのですから。初めてここに入った人はどう思うのでしょうかね。

しかも、そのスケベ画面のモデルのほとんどが、某美少女戦士。節操の上に、独創性まで無くしたかと、いやになってきました。そうした仕様が売れるのは、確かですが……。この調子だと、冬コミはどうなってるのでしょうか。

いささかうんざりしながら、私は南館を後にしました。

さて、また外で一休みした私は、再び新館二階へと足を向けました。ふと時計を見ると2時を回ったところでした。

そして、相変わらず格闘物全盛のアーケード系を見てまわっているうちに、私は、あるとんでもない本を見つけたのです。

本の題名は『トップをねらえ!』（著者：花頭申さん）。まるで某OVAみたいなタイトルのこの本、実は今から5年前のアーケードゲーム『TOP LANDING』（タイトー）の本だったのです。

この『TOP LANDING』（以下、TL）というゲームをご存じない方のために簡単に説明いたしますと、「旅客機を空港に着陸させる（だけの）ゲーム」と、なりますか。

「どこが面白いんだ、そんなもん」と思われる方も多いと思いますが、これが、実に面白いのです。毎回変わる時間帯や気象条件を相手に四苦八苦しながら旅客機を着陸させる面白さは、他のゲームではちょっと味わえません。特に最終面では、ジャンボジェットを暴風吹き荒れる（下手をすると、夕闇の上、雨まで降ってる）空港に強行着陸させるといふ、栗田はるなもびつくりの物凄さです。

ただ、画面が地味で、プレイしている本人以外は、見ても面白くも何ともなかったこと（画面に表示されるのは前方的風景と計器類のみ）、操作系の難しさのせいでしょうか、今ひとつマイナーゲームのまま、消えてしまいました。

この本は、そんなTLにハマりまくった著者が、5年の歳月をかけて書きあげたTLの攻略本であります。また、中にはゲーム中に登場する旅客機や空港のデータ、航空用語解説集、果ては、なぜかスチュワーデスさんの制服ミニ図鑑までであるという、ものすごい構成です。

また内容的にも、判りやすく、非常に丁寧に書かれている印象を受けました。

唯一の問題は、果たして今現在、TLがどこのゲームセンターにあるのかという事ぐらいですね（笑）。しかし5年前のゲームの攻略本が堂々と売られているというのも、コミケの面白いところです。

あと余談ですが、実はこの本、私の後輩の書いたものだったんですね。

「B君（後輩）の好きそうな本だなあ」などと思いつつこの本を買い、家に帰ってから読んで、それからこの原稿の下書きを書きあげ、そしてその日は寝てしまい、翌17日になってからこの本の奥付を見てやっと気が付いたという。なんて大ボケ（笑）。

そう言えば、あちこちにB君の趣味が見え隠れしていました（イラストも、よくみたらB君の物でした）。

そうそう、このB君、実はBlowでプレイヤーもしているんですね。さて、だれでしょう（ちなみに、“B”は、イニシャルではないですよ）。

それにしても、また私の知人で、門を越えた奴がひとり……（笑）。

と、いうわけで、このあと私はもう一度ひととおり回った後、2時45分発東京駅行のバスに乗って、晴海を後にしたのです。

従って、このレポートも終わりです。やたらにだらだらとした、読み辛いレポートではありましたが、一部の方にしか判らない話題ばかりでしたが、何卒ご容赦のほどを。

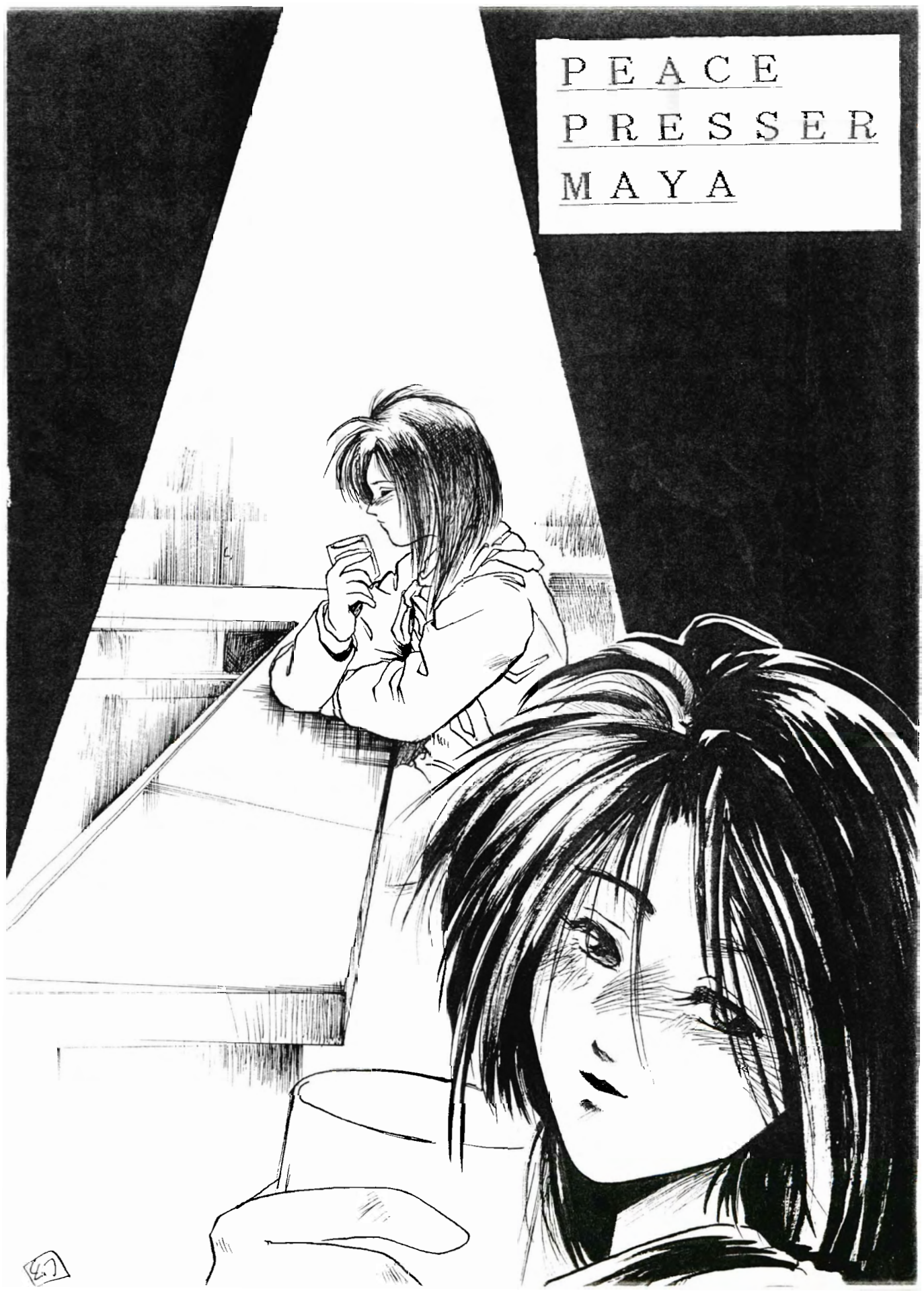
それでは皆様、さようなら……。

END

はい、このページの編集をやらせていただきました田中真人です。実はこの文書は3,5インチのフロッピーディスクで手渡されまして（ラッキー！プリンターで印刷するだけじゃん）と考えたかをくくってましたらMS-DOSのテキストファイルに書き込まれててなんとA4サイズでしか印刷ができませんでした。しかたないので縮小コピーしてその上にこの文書をはっ付けてます。字が薄かったり、潰れてしまっている箇所もあるかも知れませんが、勘弁して下さい。

さて夏コミですが僕も行きました。2日とも。今年は去年に比べて本当に涼しかったので一般行列者である僕には大変助かりました。（陽は照らず、雨も降らず、気温もあまり上がらない）特に日焼けを気にする女性は喜んだんじゃないでしょうか。しかし最低でも入場まで3時間待たされるのは変わりありませんでした。おまけに疲れてたから待ち時間が実に厳しい！生まれて初めてウンコ壅りしたまま眠るという貴重な体験までしてしまいました。（後で10分はしびれて立てなくなるけど）でもいざ会場に入ってしまうとそこはもう別世界。会場は確かに戦場には違いないけど見るだけで楽しい？コスプレの人達で一杯です。印象に残っているのは幽々白書の戸愚呂（兄貴の人形を肩に乗せてて恐かった）会場を裸足パンツ一枚で歩き回る東丈、早くも登場右京とナコルル、本物かと思うほどそっくりな全日の川田、どこでそんなもん作ったんだ？仮面ライダーX、そしてお約束のナチのSS。一番目立ってかつ数も多かったのはやっぱり「お仕置き5人組」でした。でもあれって実際にコスプレするとキャバレーの制服にしか見えません……。

P E A C E
P R E S S E R
M A Y A



前回のあらすじ

ICPOの捜査官尼崎摩耶が、帰宅途中を何者かに襲われた。翌日から捜査を開始した摩耶だったが……

4：奴らの尾行に気がついた鶴見の手前あたりから、首都高入口を中心に聞き込みを始めたが、半日経っても効果ははかばかしくなかった。それはそうかも知れない。連中が乗っていたのはそこら中走っている普通車で、一度見たら間違えないというほどインパクトのある代物ではなかったから。おそらく連中もそこを狙って車を選んだに違いないが、だとするとよほど計画的に狙っていたらしい。並のテロとは違うようだ。三流テロリストなどは後先考えずに事を進めるから、比較的数が多い割に意外と捕まえ易いものなのだ。

それにしても解せないのは、なぜ私が狙われたか、だ。確かに前科者連中の恨みを買うようなことは憶え切れまいぐらいやらかしているが、その報復は「計画的犯罪」の出番ではない。もしかするとよほど根に持つ奴かも知れないが、……しかし、そのテの奴と関わりあいになったことがあったらどうか？

公用の覆面車を運転しててやけに眩しくなってきたので時計を見ると、そろそろ4時になろうとしていた。すこし茶でも飲むか。タベの一件以後、危っかしいので車は港北署に預かってもらっていた。警察署に置いてあれば変な気を起こす馬鹿もいるまい。今朝の通勤ラッシュは代償にしちゃ安い方だ。

国道沿いの喫茶店を見つけて車を停めると、助手席にいたヤーニヤが訝しそうに私を見た。

「休もう」エンジンを切りながら言った。「疲れた」

「日本人も、意外にお気楽なのね」

なんとなく馬鹿にしたような口調で——今朝からずっとそうだった。何が気に食わないのか——彼女は呟き、車から出た。何か一言言い返してやりたかったが、止めた。私はこのテのエリート肌の人間は苦手だ。

30分ばかり油を売ったろうか。私は専ら漫画雑誌を読みふけていたのだが、——ヤーニヤはクロスワードと覚しき本に没入していた——そろそろ出ようと席を立った矢先、何の予告もなしに大爆音が辺りを圧した。衝撃波で窓ガラスが砕ける。嫌な予感に促されて外を見ると、案の定、今まで乗ってきていた公用車が派手に燃え盛っていた。やれやれ……！

普段減多に使わない神奈川県警のIDの方を掲げて（私は県警から出向という形でICPOにいる）簡単な事後処理を行い、サイレンを鳴らして警視庁の警官がやって来たころには、やじ馬が遠巻きにして公用車の周りに集まっていた。

「……せいだわ」

ヤーニヤが警視庁の現場検証を見つめながら、呟いた。

「あ？何だって？」

「私のせいだわ」

今度はハッキリと言った。

「ブラック・ムスリムの手が、ここまで……」

ブラック・ムスリム？そんな馬鹿な。国境線の撤廃を最も歓迎したのは有色人種たちではなかったか？大体何でブラック・ムスリム？それをそのままぶつけてみた疑問に、ヤーニヤはいともあっさり、ただし小声で答えたものだった。

「私の存在そのものが白人優位の宣伝材料になるからよ」

それから先の説明に、私は内心怒りさえ覚えて、本部に帰るなり主任のオフィスへ怒鳴り込んだ。

だが、主任は動じなかった。主任は一言で、私の抗議に答えた。

「ヤーニヤに関するその件は事実だ。私も信じられんが、事実なのだ」

要約すれば、ヤーニヤは超能力者だという事だ。それも天然のものではなく、ほとんど人工的なもの————いわゆる遺伝子操作というやつ————らしい。その「能力」とは、「機械感応」と言われる類のものらしい。

例えば、ヤーニヤは、キーボードを叩かずにワープロで長文のレポートを作成できる。それも思考とリアルタイムで。こんなのは序の口で、物を問わず、集積回路を使用しているなら接触するだけで意のままにコントロールできるらしい。私は夕方ヤーニヤからその通り言われて（実はスプートニクの説明の時に若干触れたらしいのだが、私はその時は聞いていなかった。わはは）そんな馬鹿な話があるかと頭にきて、「こんなエリート気取りの、大嘘つきの気遣いは解任しろ」と怒鳴り込んだ訳である。そもそも私は超能力だとか心霊現象の類は、物心付いた時から信じない主義で生きている。ところが、エイプリルフールでもないのに主任が真顔でこれを肯定したとなると一大事である。説明に出されたICPO公式の「秘密文書」も、ヤーニヤの超能力が本物であることを証明していた。事ここに至ると、とりあえず信用せざるを得ない。

「ヤーニヤがああ能力を持つに至ったのには、長い歴史がある」

主任は真顔で私に言った。ヤーニヤはブースに残してある。

「ロシアが未だソ連だった時代まで、事はさかのぼる。電子技術で西側に遅れをとっていたソ連の技術陣は、人間の神経系と電子回路を直結することを考えた。初めは端子を末端神経に着けて実験していたが、やがて脳波を直接使う方式に変化したのだ。ソ連がロシアになってからも、極秘で研究は続けられた。そうした中で、突然変異的にヤーニヤのような能力を持つ人物が現われ始めた。もっと初歩的な段階にすぎなかったが、……これを強化することに、ソ連の技術陣は成功してしまったのだ」

「馬鹿な……」あまりの事に私は二の句がつけなかった。

「もちろん、人道上の問題が残されていることは事実だ。しかし一方では、ヤーニヤの成功をもって、人間とコンピューターを直結する技術は完成した。それは今の遺伝子技術で十分に再現可能だ。ヤーニヤの成功以後、この方面の研究は終了した」

しばらく、空白の時間が流れた。

「ヤーニヤは、白色人種だ」

主任は念を押すように、ゆっくりと言った。

「国境線が事実上なくなったとは言え、白人上位時代の再来を願ってヤーニヤを利用しようとする、時代遅れのバカどもは、まだいる。彼女がICPOにいたのはそうした輩を少しでも減らしたいというヤーニヤ自身の希望でもある」主任はそこでまた、言葉を切った。「ヤーニヤの能力は、それを実現するに足るものだ。そしてそのサポートとして、君が選ばれた。少なくとも今のICPOには、ヤーニヤと同年代の捜査官で君よりも銃の扱いがうまい人間

は、そういない」

そう言われると照れる。

「このヤマはな、マヤ、今までの広域殺人やテロとは訳が違う。力押しだけはするな。押せば押すほど奥に行くぞ」

それきり私は主任のところを追い出された。

…しかし、ヤーニヤの話で昨夜の事件の犯人についても、一つの筋は得られた。秘密結社というものは、殺害対象の周囲からじわじわと殺していき、対象の恐怖心を煽る傾向がある。ヤーニヤはモスクワでもその手の「テロ」に何度となく遭遇していた。今回の東京転属はそれに関する安全対策の一つでもあったのだが、東京でのテロ対象第一号が、私ということか？上等だ。

仏教徒をなめんよ。

誰にとはなく呟いた、その瞬間。

地鳴りがした、様な気がした。

いや、確かに地鳴りはしていた。続いて襲った強い横揺れが、証明した。

地震だ！…それもかなり強い。

反射的に机に潜り込んだ私だったが、ふと見るとヤーニヤはなす術もなく官給の端末にしがみついたままである。

「隠れろ！」

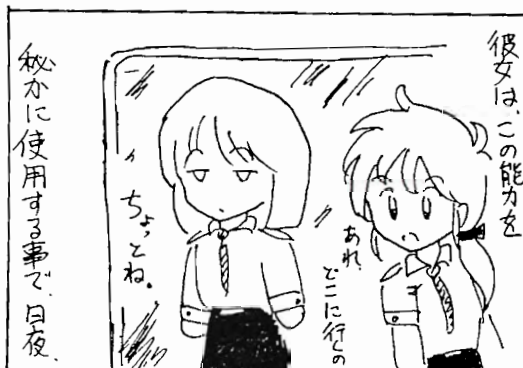
叫んだが、この揺れではどうしようもなかった。私も気付くのが一瞬遅れていたら動けなかつただろう。たっぷりと横揺れが続いた後、今度は鋭い小刻みな縦揺れがやって来た。震源はだいぶ近い。

そこかしこでスチールの書類棚が崩れる鈍い音が響き渡る。私のところでも目と鼻の先に端末のディスプレイが落ちてきて、派手に碎け散った。

その光景を目にしている、外で何が起きているか、私には何も予想だにできなかった。

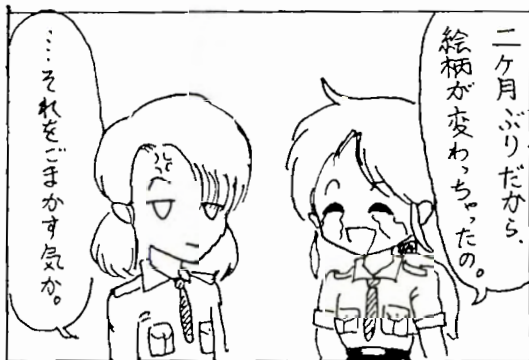
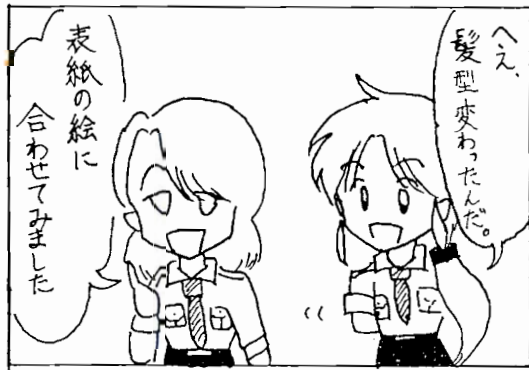
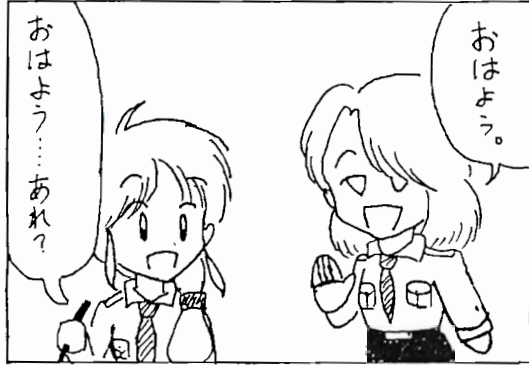
(続)

裏設定Ⅱ ~あるゴト師~



言いわけ その2

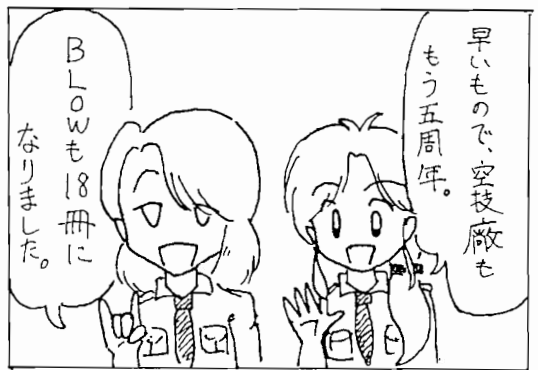
～しつとに書かすから～



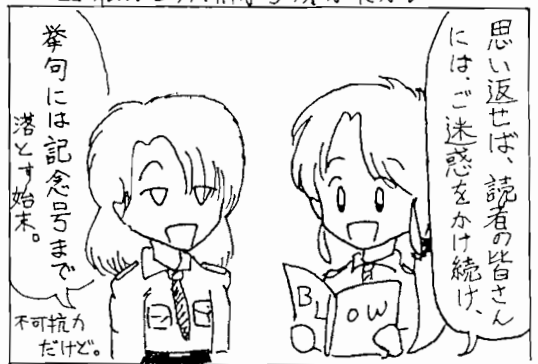
来月はもと変わるかも。

ごあいさつ

～航海日誌にかえて～



▲私は3ヶ月前からの参加だが。



▲まあ、BLOW51ってのは、51いいけど(笑)。



よろしくお願ひします。 本居の先輩。

カラオケ



航海日誌

菊：最近「挑発」が癖になった私の本は今！
ドキドキするほど大ピンチです！
田：血イ吐きそう……。 (えいげんせいよ：編)

Crew

編集長：菊地研一郎／編集補佐：田中真人
筆者：本居の先輩 岬当麻 正宗征士
本居小次郎 じゃぎゅあ／絵：井村和正
セージ ただのりな 本居の先輩 牛
(脱稿順)

空技廠創業5周年記念 兼
台風見舞号

Blowers第18号
第4巻第7号(通巻19号)
平成4年10月1日発行
代価300円(送料別)
編集人・発行人：菊地研一郎
発行所・印刷所：「空技廠」

本誌記事の一部または全ての無断使用を禁ず

表紙：宴会！パーティ！ 画・ただのりな
裏表紙：那魅のファンの人、ごめん。

次号「総員上甲板、急ゲ」は

10月末日発行予定です。

原稿・投稿メ切は10/23(必着)です。
冬コミ等で多忙な時期ですが、ご協力よろしく
お願いします。

9月10日朝、ハナ肇氏が逝去されました。
最後になりましたが、ここに追悼の意を表し
ます。 合掌

㊦この本は京都で印刷され……てた、はずり